

教會の牧師めて熱心な福音を宣傳へ又一首の尤も有名なる讚美歌を作れり即ち日本譯の八十一番是あり氏の堅くカルウインの神學を守りウエスリーと嚴しき爭論を爲せしとあり固より基督教の大体を信ずれども或の神學上の奧義も就て爭論を起せし著例と云ふべし此の二人の共々非常の爭論を爲したれども同一の信仰あり又ウエスリーの讚美歌および氏の讚美歌の諸教會の喜びて用ふる者あり然れば神學上も就て聊か意見を異にするとも二人とも必ず心を合せて神を讚美せしならん若し生前も其爭論を止めて神を讚美せしあらば最も幸ひありしあらん

〔第六〕ハオールド(紀元一千七百廿六年より全九十年まで) 氏の神學者として説教者として其働きを異にするれども實も同一の精神を現はせり原商家の子として嘗て其父より財産を受けて後嗣と爲り夫より各國を巡廻して風俗人情を視察したりしが航海中佛國人の爲に捕はれて獄舎に入れられ非常の患苦を嘗めたり歸國の後ち前世紀の彼のボンヤンが世話したる教會の會員と爲り且つ其役員と爲れり爾來その地方監獄の状況を調べ尋で全國を巡りて到る所の監獄

を査察し其監獄の不長あると其囚人の不憫なるを具狀して之を帝國議會に報告せり之の働きのよよりて大に監獄の情態を改良したれども氏の之を以て満足せず更外國の監獄および病院を視察して猶ほ之を改良する爲に大に能力と財産を費せり然れば氏の自ら疫病人と共々交はり其他の病人と共々病院に入りて審かみ其の有様を調べ後ち疫病人を看護する爲に自ら死したり嗚呼氏が如きの實仁者と云ふべし而して其働きの皆キリストを愛する心も基づけるものあり當世紀に於て信仰の復活せし結果を調ふる時の實は是の如き仁者多くありたり

第三項 不信仰

此の世紀の前半紀の基督教の反對する論を述ぶる者多く之あり又その不信仰の反して基督教の眞理あることを論ずる學者も多くありたり其學者の働きの結果の右も記せる説教者の働きのよよりて生ずる結果と大に劣れる者おれども實も學問を盡して基督教の爲に辨証したれば其働きの決して輕蔑すべからざるものあり

〔第一〕自然神教

自然神教の第十七世紀の終頃お起りこの世紀に至りて其説を主張する者尙は數人ありたり彼等の預言お基づきし証據を嘲け或の奇跡の無道理あるを詬り或の默示の無用を論じ或の舊約の教を罵るを以て基督教を駁撃したれども神の存在および宗教の必要あるとを反對するといふかありしかり却説また學問ある信者の己が學力を盡して其論お答へ基督教の証據を述べ強く基督教が道理お適ふとを述べたり然れば彼等の喧しく基督教を攻撃したれども其論の何時しか全く消亡て現今是の如き説を信する者にて一人もあるとさければ本史お其徒の名を記載するも足らざるありされば教會史家を除くの外現今更に彼等の名を知る者恐くのあるとさからん之を反して基督教の反對論者おて歴史家ヒューム(紀元一千七百十一年より全七十六年まで)云へる著名の人あり氏の英國史を著しすを以て名を博し其他理學お關係する書を多く著しせり氏の固より自然神教を受けざる耳あらん神の存在をも全く信せざる者なり特にお奇跡に反對して名高き論をなしたるとあり即ち奇跡と云ふの全く人間の經驗お逆ふものおれば必ず偽りのあり又誤りの証據の經

驗お反對するものお非ざりし故お奇跡を受入るよりも寧ろ証據人の証の偽りなることを信すべしと云へり然れどもよく此論を熟考する時左程の勢力あることを看破するを得べし若し夫れ神の存在と其恩恵とを信せば其神が奇跡を爲し給ひしことを信するお於て敢て難からざるべし其思ふかき神おして而かも人類を憐み默示を施し又その証として奇跡を行ひ給ひしとの決して道理に反れるとおあらざるあり

〔第二〕ボツテラ(紀元一千六百九十二年より全七百五十二年まで) 基督教

の辨証論を著しし學者多しと雖も其論の概ね當時お在りて庇益を爲せしも現今おは其論を讀む者あるとさかりしが今より一百五十年前お出版して當時の人々を感動せしめ今おは人々の徧く閱讀する辨証論の一著者ありボツテラ是あり氏は皇后宮の教師と爲り後ち監督と爲れり嘗て自然神教に反對せる有名の辨証論を著しして基督教が道理お適ふとを論せり特におその論點の神の存在を信する者の基督教を棄つるの理あることを現しすお在り乃ち基督教中お解り難き所あるおもせよ之お依りて基督教を棄つる者の同じく自然神教をも棄

つべきなりと氏が論點の直接に自然教を駁撃するに在れば直接不信仰を駁撃するに適ひざれども若し人は是の如き辨証論を研究する時の大に庇益を得べし。

第四章 亞米利加國

この世紀の終頃八八年間の戦争を以て米國の殖民地の獨立を得て始めて亞米利加國と爲るを得たり。

〔第一〕宗教上の情況、第十七世紀に米國に移住せし「ピューリタン」黨の篤き信仰を以て深き宗教を重んじ種々の艱難辛苦を耐へ忍びながら遂に殖民地を開きたれども第十八世紀に至りて其後裔の中彼の英國と同じく其熱心の大を衰へたり又た其品行の方正あるも活る信仰なくして教會に加はる者少からざれば教會の半納束と云へる方法を設けて是の如き品行方正なる人の子女に洗禮を施すことを允せり夫のみならず或る有名なる牧師の説によりて晚餐禮の人を益する大禮あれば何人あても志ある者の此の禮を祝ふことを允すべしと云へり是等の事よりて活る信仰なくとも洗禮を受け晚餐禮を祝する者多

くありしが爲に全教會の熱心の大を衰へ説教者の多く道義上の學術を教ふるに至れり。

〔第二〕エドワード(和元一千七百三年より全五十八年まで) 當時信仰を奮起す爲に大なる力を盡せし者の中氏の最も著名の人なり氏の或る牧師の子にして十四歳の時大學に入り大に哲學および神學を研究することを好み卒業の後ち二三年間同校の教師と爲り後父の後を嗣ぎて牧師と爲り廿三年の間其教會を牧せり眞情よりキリストの恩恵を感じ道徳の人間を救ふに足らざることを深く曉りて熱心キリストの贖の必要あることおよびキリストに依頼すべきことを述べたり然れども教會員の是の如き活潑なる説教を聞くことを好まざるを以て氏の其職を辭して未開の地に出て六年間その土人之道を傳へ其處にて有名の書を著し又その際或る大學の校長に撰ばれて其任に就くや直ち其抱懐を患へて遂に死せり氏の米國諸教會の信仰を奮興すを以て大事業と爲す耳ならず其他幾分か「コンテリゲーション」の神學を改良せり乃ちカルウインの後を嗣げる者のカルウインの神學を大に稱譽すれども或の之より先きカルウイン

派の神學者よりも氏の大なる人の責任を教へたり。

〔第三〕信仰の復活、前記述べし如くホイットフィールドの七回まで米國
お航り諸方の教會を巡りて活る信仰を起せり又エドワードの説教によりて宗
教の大お甦れり。

第五章 外國傳道

第一項 大改革時代の傳道

ルーテル及び其徒の熱心お眞の救道を教へたれどもルーテルもカルウインも
共にお外國傳道の事お至りては措て問のざる者の如し其理由の(一)新教の盛んお
行ゆる、獨逸瑞士等の國に於ての開港おく殖民地おく又外國と貿易商業を爲
さいるを以て直接お亞細亞亞米利加等に干係を有せず是故お外國の有様を見
て傳道者を送ることを爲さいるあり當時亞細亞亞米利加等の西班牙葡萄牙の關
係を以て羅馬教の大お盛んあり然ればこの時代お外國傳道お從事せしむるに
羅馬教の働きお云ふべし又(二)ルーテルの世の終りの近しと思ひし故を以て能
く基督教擴張の大切あるを曉らざりしあり。

第二項 第十七八世紀の傳道

〔第一〕和蘭人の傳道、和蘭人の西班牙の壓制お反して獨立を得んが爲お
長く戰爭せし際お外國の商賣お係りて大お國益を得たり特にお亞細亞の東南
地方おて廣大ある領地を取りたれば同國政府の其土人に基督教を傳へしめん
と思ふて故らお宣教師を送り又聖書を其國語に譯せり是故お其地方土人の中
お洗禮を受けたる者多けれども不幸おして傳道方法の過てるが爲お其真
の信者たるもの甚だ少し乃ち其傳道の政府の働きおよりて成立ちたるもの
あれば信者の專ら政府の親好を得んと欲する耳ならず政府より食物とも受
けんと思ふて漫りお基督教信者の名を冒す者頗る多きお至れり之お依りて不信
者お此の基督教信者を罵りて「米の信者」と云へり。

〔第二〕丁抹の傳道、丁抹の極めて小國あれども當時印度お於て幾分お領
地を有せり國王の篤き信仰の人なれば其領國內土人の情況を憐み紀元一千七
百五年に傳道會社を設けて印度の東南海岸に傳道者を遣はせり是の時お方り
て王の頻りに傳道を獎勵たれども本國おての傳道お志ある者一人も之れおけ

れバ獨逸のメナ及びフランスに依頼して傳道者を送らんことを請へり其依頼
お應じてフランスの己が學校の生徒たるツイゲンバルツと云へる者を遣はせ
り時外國の傳道を嘲ける者多く又殖民地の酋長たる者も成るべく傳道者の
妨害を爲せり然れども其傳道者の種々の妨害に忍耐しつゝ熱心を盡して働
又一たび本國に歸り諸教會を巡りて傳道の熱心を鼓舞せり此の傳道者の己が
力の有らん限り働きたるを以て卅六歳すなほ紀元一千七百十九年を以て死
したり又同世紀中其地方の傳道せし者の多く獨逸國人なり其中尤も著名なる
傳道者のニュウツルツなり紀元一千七百廿六年より全九十八年まで氏の廿四歳
にして印度に航り愛心を盡して働きたり故に不信者なる土人すら大に其親切
感じたり嘗て戦争の起りし際契約を締ばんと欲せしが其土人の酋長の外國人
に向て若し契約を締ばんと思ひ彼の「クリスチアン」を遣はせよと云ひたる
あり又饑饉の起りし時其酋長の食物を集めんと思ひしかども一般の人民の其
酋長の約束を聞容れざるを以て止むを得ず酋長とニュウツルツに依頼して其人
民より食物を集めたることあり又英國の兵卒もニュウツルツの親切を感じて品行

を改むる者多かりき又英國政府も屢次氏に依頼して使者を爲したることあり之
に依りて土人も酋長も英政府も篤く氏に賞典を與へんと欲せしかども氏の自
己の爲に金錢を領ることを好まず唯だ有る程の金錢を散して學校および教會の
爲に費せり而して其酋長の死する時己れの子を氏に託して教育せしめたり氏
の凡そ五十六年間働きたるを爲して死せり其働きたるより六七千人の信者出來た
り又不信者なる土人の神を敬ふ如くして氏を敬へりと云ふ

〔第三〕他の傳道、「モーレヒアン」派の傳道の熱心の己に第二章に於て述べ
たり又米國にて傳道せしとの前時代の第八章に畧述せり第十八世紀の終りお
至るまで外國傳道に干ひたる教會の「モーレヒアン」派の外甚だ稀あり當世紀の終
頃始めて傳道の盛んお行はれし事跡の第十九世紀の第六章に至りて述べし

第十二時代 第十九世紀

抑も當世紀に至りて學問の大に進歩し又鐵道汽船電信等の發明を以て社會

の便益を興へ且つ國家の富有を加へたり然れども學問の進歩を誇りて默示を棄つる者あり又た直接の宗教を棄てざれども基督教の證據を輕んじて宗教を放任のもの多くありたり又不信仰の流行するが爲め基督教の前の暗黒時代を流行する道おして此の開化の時代おの必ず衰退して全く跡を絶つべし杯と云べる人ありたれども若し能く熟考する時を決して然らざる所あるべし夫の己れの廉耻を知らざる不信仰の幾分か流行したれども活る信仰の前の時代よりも一層盛んお行のれ基督教の爲め働く精神の最も此の時代お至りて熾昌なりと云ふべし乃ち此の時代の人間の智慧精神等の盛んお働く時代なれば不信仰者の反對論も又た信者の信仰より溢れ出づる傳道も甚だ盛んお表れたるあり

第一章 羅馬教

〔第一〕法皇ビヨス九世、ビュスは紀元一千八百四十六年より全七十八年まで其職お在りて諸法皇中最も長く位お在りし者なり其位お上りし時凡そ六千人の囚人お自由を得せしめ新聞紙お幾分の自由を施し又政治を改良し元老院の如きものを設置せしを以て自由を好む者より大に稱譽を受けたり然れど

も夫より二三年の後ち自由黨と不和を生じ遂お争亂の起りしが爲めロマより通れたりしの後ち佛兵の應援およりて自由黨お勝ち漸く本國お歸ることを得たり又夫より他國の兵威を藉りてロマお止まることを得たり又彼れ耶穌會社の説を受容て法皇の壓制の益々進歩せり。

〔第二〕マリアの無罪出生と云へる法令(紀元一千八百五十四年)古時

大にマリアを尊敬する風習が一たび教會の中お起りしより以降其風習の益々盛んお行のれられたれば彼のアウグスタンの如き神學者すらマリアの無罪あることを述べ又第十二世紀に至り始めて或人のマリアの無罪出生と云へる説を唱へマリアの躬自ら罪を犯さる耳ならずアダムより傳はりし罪も更お干りしとなしと云へり然るお中世の最も有名なる神學者ベルナルト・アンセルム・トマス・アキノナスの如き此説お反對したれどもフランシス派の神學者トマス・スコトスの却て此説を主張せり爾來一般人民の中お此説の益々流行せしが這般法皇の詔を出して此説の最も信すべき説ありと決斷せり乃ち法皇の此事を定むるお先づ數百人の神學者および諸監督の説を聞入れ後ち己れの威權を

以て此事を決断せしかり蓋し想ふ此説の原來聖書に基づかずなとち路加一章四十七に記せる如くマリヤの自ら神を崇めて「我が救主なる神」と云ひし詞の適のされども法皇の決断よりて羅馬教徒たる者の悉く此説を信せざるべからず又當時法皇が監督等の意見を尋ねし時彼等我が持みとすべき者の最聖マリヤにて我儕の望みと救の唯だマリヤより受くべき者ありと答へしを以て迷ふ斯く度お過ぎてマリヤを敬ふ心を表しせしかり然れども此一事お就ての實に困難なる疑問の生ずるならん乃ち神の默示を受けざる以上の決してマリヤの無罪出生を知ると能はざるべし然れども若し法皇の已に神の默示を得て此事を決断せりと云ふは何故か諸監督の意見を尋ねたりしや余は是の如き疑問お對しては能く答ふる所を知らず又マリヤの無罪出生を信せばキリストの無罪出生を知ると能はずとの論ありしが是の論およればマリヤの母も其祖母も又その先祖等も悉く無罪出生ありと信せざるべからざるあり。

〔第三〕一千八百七十年の大會議 羅馬教歴史家の計算およるに道般の大會議の抑も最初より第十九回或は廿回人およりて異説ありの大會議おし

て此の會議およりて法皇の權力の尤も尊くなれりと中世以來法皇を尊敬しながら大會議の決断なければ大事を決断する權なしと論する神學者多くありたれども此の大會議およりて法皇の自ら法皇の資格を以て宗教上の事を決断する全權を掌握するに至れり乃ち紀元一千八百六十九年十二月羅馬にて法皇の宮中お近き聖彼得の大會堂にて此の會議を開きたり又法皇の宮殿を「ワテカ」云へるを以て此の會議も「ワテカン」の大會議と云へり是時の議員の七百六十人ありしが多くの伊太利人にて専ら法皇に依頼する徒なれば會議の規則およりて法皇と其徒との會議の論を束縛するを得べし先づ再び教會の信仰箇條を定め次お不信仰および凡ての異端を棄て而して後ち最も大切なる問題を討議せり乃ち法皇の權力は是時議員の多數の法皇の依頼お應じて初めより之を賛成したれども凡そ一百人計りの議員の之を賛成せざりしがさりとて又法皇の權力に抵抗するをも好まざるを以て愈々其事を決断するの前夜密か羅馬より遣れ歸りたるが爲に當日其事を決断せし時不賛成者の只だ二人のみありしあり特にお非常の雷鳴中法皇の其決断せし議事を報告せり

此の決斷より法皇の自ら法皇の資格を以て教ふる所の事すきはち信仰上の教義及び道徳上の教訓に至るまで必ず誤謬なき眞の教ありて活る神の聖言と同じく何時までも信じて受くべきものなりと云ふ又之の現在の法皇および將來の法皇のみならず最初より諸ての法皇たる者の誤りなく道を教ふる全權ありと云へり然れども第五時代第三章第二節於て述べし如く大會議また他の法皇の決斷よるホノリウス一世の嘗て誤りたる意見を述べたることあれば道徳の決斷の歴史に適する耳ならず勿論道理も適するものと云ふべし然れば其大會議中稍學問を以て有名なる議員等の多く之を賛成せざりしかども後ち法皇お負けて多くの新しき説を受入れたり

〔第四〕法皇ハ、ローマを支配する權力を失ひし事 右の會議より法皇の全權を決斷せし其翌日獨佛の間を戰爭を開きたれば佛國政府の本國を護衛する爲にローマより悉く兵卒を招還したり之より先き伊太利王のローマを以て己れの都府と爲さんと思ひたれば此處に乗じてローマを攻取れり是時ローマ人の投票を以て伊太利王お属せんか法皇お属せんかを定めたりし伊太利に属す

ることを賛成する者の凡そ四萬人餘あれども法皇お属せんことを欲する者の僅ら四十六人のみあれはローマの遂に伊太利の都府と爲れり然れども伊太利政府の決して法皇を束縛することなきも唯だローマを支配するの權威を奪取りたるを以て法皇の大に怒り我の囚人なりと云て終身宮中より出でず之お依りて現今もは伊太利王と法皇との和解せざりき

〔第五〕舊加特力宗派の起源 右の述べし如く此の新しき説を賛成せざりし監督も後ち遂に法皇お負けたれども獨逸にて之お負けざる學者もありたり特にお羅馬教中最も有名なる歴史家ドレンガの法皇の新決斷を以て決して

教會歴史に適するものとし毫も法皇の怒りを怖れずして四十人の朋友と共に不賛成の意見を現したるが爲に教會より放逐せられたり其翌七十一年お其徒および同説を主張する者相集まりて一の新派を起せり彼等已に法皇の新説を棄て古より傳はりし羅馬教の眞説を維持することを表はさんか爲にお自ら舊加特力派と名附けたり其他和蘭のジャンセン(第十時代第二章第二)の監督より按手禮を受け而して自ら己れの監督を撰舉し又少しく羅馬教の風習を改良して

晚餐禮を祝ふ時一般の信者にも葡萄酒を與へ禮拜を爲す。拉丁語を用ひずして各國の言語を用ひしめ、又僧侶に妻を娶ることを允せり。此徒の瑞士及び佛蘭西も少しく之れありしが五六年の後ち五萬人に増加せり。之に依りて或の新改革の起るとあるべしと望みたる者あれども其後の左のみ進歩せざりき。乃ち萬國の羅馬教徒の法皇に従ふべき精神ありて其全權を受入るゝことを喜びたればなり。

〔第六〕妄信の復活 法皇の已に肉体上の權力を失ひたれども靈魂上の權力の益々旺盛されり。乃ち前年の各國教會の獨立を重んじて法皇の全權掌握説に反對する者もありたれども、今や羅馬教徒と全く法皇の全權に従ふに至れり。又學者中にて其信仰の衰へたるを共に無學の信者中のみ妄信盛んお起れり。特にお佛國にて聖マリアが降りし幻を受けたる者ありとの説を開き其マリアの降りし處お參詣せば必ず諸病を癒さるべしとの説流行せしが爲お其地お參詣する者甚だ多し。夫のみならず「イエスの心臓」と云へる婦人の會社ありてイエスの心臓を敬ふ心を以て法皇お從ひ羅馬教徒の爲お勤く者一萬人もありたり。

〔第七〕羅馬教の流行せる各國の情況 現今羅馬教徒の數を以て新教徒お比較すれば幾分か其差あるべし。乃ち羅馬教徒の凡そ二億萬人あり。新教徒の一億六百萬あり。而して希臘教徒の信者の八千九百萬あり。云ふ然れどもその二億人の中お於ては南亞米利加およびメキシコの如き未開の人民多くある耳ならず。未だ第十九世紀の學問の充分お流行せざる西班牙葡萄牙國人等あり。又佛國の情況を考ふるお其人口と三千七百萬（日本の人口と同數）あれども其中お三千五百萬人の外形上の信者おて自餘の六十萬人の新教徒の信者あり。又其の婦女女子の多く眞情より羅馬教を信じ右に述べたる奇怪奇跡を信する程の妄信者なりしが男子の中お羅馬教徒の名を冒しながら之お反對する者多く。又全く信仰の衰へたる者も多し。又共和政黨の中お羅馬教お反對する精神甚だ盛んあり。此の徒の恐く羅馬教お反對する耳おらず。一般の宗教お反對する精神を有する者あり。又羅馬教および新教の牧師等も威な政府より其給料を受けたり。其他是頃る政府の干渉を離れて新教を傳ふる熱心家もありたり。又獨逸國人の凡そ三分の一、埃地利國人の凡そ三分の二、及び伊太利、西班牙、葡萄牙、アイルラ

ント人の大抵みな羅馬教の信者なり而して此頃に至るまで埃地利伊太利葡
牙於て新教を傳ふるの自由なりしりども伊太利於てハ幾分か其自由を得
たり今なほ埃地利西班牙葡萄牙於てハ其自由あかりき又古のワルデンセス
第七時代第三章第三項の後嗣ハ熱心ハ聖道を教へり、

第二章 獨逸國

前の時代於て述べし如く第十八世紀の終頃に至りてハ獨逸國の神學者中
仰大ニ衰へて直接ハ基督教を棄てざるも活る信仰を以て神の默示を受入る、
者殆んど稀れなり是の如く信仰の衰へたる牧師の導きを受くるを以て勿論教
會の信仰も大ニ衰へたり此の世紀に至りてハ直接ハ基督教を棄つる者あり疑
惑を起す者あり又己が學力を盡して基督教の眞理なることを論ずる神學者もあ
りたり、

第一項 福音一致教會の起源

紀元一千八百十七年の彼の大改革より三百年期ハ相當するを以て大改革紀念
會を開きし時空しき爭論を止め相與に新教の大体を信する者一致團結して不

信仰および羅馬教を反して正教を信すべきことを締盟する者ありボルシヤ國王
の大ニ其望みを賛成したれば其好意より本國於てルーテル教會および改革
教會の共ニ一致して福音一致教會の名を附したり其地方の邦々於てハ此の
一致教會の幾分か流行したれども或ハ一致を好まずして堅くルーテル教會の
風習と其信仰箇條とを守らんと思ふ者ありたりしに國王が幾分か強て教會の
風習と禮拜とを改良せしを以て一致を賛成せざる者もありたり現今はルー
テル教會あれども新教の信者の多くハ此の福音一致教會ハ屬せり又獨逸國の
教會之最初より獨立せしとなく専ら政府に依頼して牧師の給料ハ悉く之を
政府より支辨せり又信者不信者を問はずして其子女ハ皆ハ洗禮を受け十五六
歳ハ至りて教會ハ加入するを常例とすれば已に教會ハ屬する者の中ハ信仰者
者甚だ多くありたれども又篤き信仰の者もありたり、

第二項 不信仰

この世紀中獨逸國於て全く基督教を棄つる者起りて其説ハ諸方ハ弘まりたれ
ども若しよく仔細ハ調ふる時ハ其説ハ學者より出て學術ハ基づく者ハあらず

唯だ全く想像臆説のみありしなり。

〔第一〕ストロース(紀元一千八百八年より全七十四年迄) ストロースの次
下に記せるバアルの門弟あれども其師を勝りて不信仰に進みたりストロース
の説の偏く一般の人民を通じ且つ英語を譯せるを以て英米國の中にも偏く
行のれたり其説の主旨を案するに福音書の眞の歴史をあらす又た故意を造り
立てたる談話もあらず即ち漸く信者の中に起りし談話なるなりと云へる
在り蓋し想ふに彼の奇跡を造る者も之れなきものと思ひ且つ福音書が眞正
の歴史たることを信せず又キリストの弟子等の正義を重んずる者ありしかども
態々偽りのを造り其偽りの爲め自ら迫害を忍耐せるありと思へり故に云く
キリストの尊き清潔を教へたれども決して奇跡を造る者を行はず又疑りしとな
し唯だ其死後尊き教に感じたる弟子の中キリストを敬ふ心を以て此の談話を
起せるあり然れば初めの決して偽りを誦る心なかりしかども次第に此の談
話を眞實ありと信するに至りて始めて眞正の歴史の如く此の談話を宣傳ふる
に至りしなりと此説の固より証據を基づける事實をあらす唯だ奇跡を信せざ

る者の想像邪推されれば決して歴史に適ひざるあり乃ちキリストの弟子等の確
かなる歴史を基いて早くより主の應り給ひしことを堅く信仰せるものあれば彼
等が古談を教へずして親しく實見せしことを証すと云へる詞の聖書中しなく
見る所なり

〔第二〕バアル(紀元一千七百九十二年より全八百六十年まで) 此人の説は據
るに昔時使徒の時代を方り使徒等の徒とバアルの徒との非常な相反する者
みて使徒等の述べし教もバアルの述べし教も大に異なる者ありしあり蓋
し使徒等のキリストが神の子なることを知らずして堅く猶太教の儀式を守るべ
きことを教へバアルの始めてキリストが神の子なることを教へ又儀式をよらず信
仰を因りて救はるべきことを教へたれば爾來百年また二百年の間此の戦争の
りたれども後漸く一致せしものあり然れば使徒行傳の眞誠の歴史をあらす
して何人か二黨派を一致せしめんが爲め造りし話なりと云へり想ふに是の説
の固より歴史を基づきし實事非ず唯だ彼の想像臆説たるに過ぎざれどもバ
アルの熱心も學力を盡して此説を述べたるを以て其説を信受する者少から

す蓋し察するハパウロの聖靈ハ感化せられて異邦人ハ基督教を傳ふるの務めを預かりしものなれども敢て使徒等と争ふことなく却て諸所に記せる如く使徒等も猶ほパウロの教を賛成したりしなり而るハバルの自家の説ハ適とざる書すのハ使徒行傳を自恣ハ棄去りたれども彼れハ羅馬書哥林多前後書加拉太書の四書簡ハパウロの眞著述あるとを証せり之を以て其説の偽なりたることを推知すべし。

第三項 信者ある學者

右所述べし如く獨逸國ハ基督教を全廢する學者ありたれども幸ひふして此の世紀中ハ己が學力を盡して基督教の辨証を著しし學者も起れり其學者の研究ハよりて教會歴史また聖書の註解も大に進めり。

〔第一〕ニユライエルマカ(紀元一千七百六十八年より全八百卅四年迄)

氏の少年の時嘗て「モーレヒアン」派の學校に入り其活る信仰と熱心とを以て大に信仰を進め後ハ牧師と爲り又紀元一千八百十年獨逸の首都ベルリンハ新大學校設立の時現今生徒の最も多き大學あり第一の神學教師と爲り終身其

職務を盡し兼て牧師の職務をも爲したり氏の神學を以て現今吾人の信仰關係ハ比較すれば實ハ不完全あるものあり乃ち三位一体の論ハ明瞭ハ解らざる耳ならず聖書中或る部分を信せずして之を棄て又萬民の信者不信者の別なく漸く救はるべしと教へたり氏の説ハ斯の如く幾分か誤りたれども之より先き獨逸國ハ行のれたる神學ハ此ハ實ハ進歩したるものあり又氏の眞理を求むる熱心を以て又キリストを敬ふ心を以て教師の職を奉じたる爲ハ大に感化力あり又其生徒中ハも正しき教義ハ進む者多くありたり。

〔第二〕チアンダ(紀元一千七百八十九年より全八百五十年まで) 氏のユダヤ

人なりしがシユライエルマカの誘引ハよりて信者と爲り嘗て洗禮を受くるの際神の恩惠ハよりて新造られしことを感じ始めてチアンダ即ち新人と云へる名を取りたり氏のマルリン大學ハ在りて教會史の教師と爲り而して有名なる教會史を著し又生徒の中ハ活る信仰を起す大事業を爲したり氏の固より大學者ありしも最もキリストを愛することを一大事と思ひ數次神學者と爲るとハ自家の心ハ因るべしと云り終身配遇を娶らずして其愛する妹と共居れり又

近眼にて平素教會史上の事を考案するの際其眼前に列なる物品の有無を知らざれば屢々過失を爲したるにあり然れども氏の學問と熱心と親切とを竭して神學を教へたるが爲み大に其好結果を現はせり其生徒の中氏の誘引によりて活る信仰を起せる者甚だ多し嘗て病に罹りたれどもなほ教會史を考へ毎日自ら考定したる所を其友人に記さしめ漸く疲勞を催ふしたれば我の今より寝るべしと云ひつゝ、眼を閉ぢて永眠を就けりと云ふ

〔第三〕トロク(紀元一千七百九十九年より全八百七十七年まで)氏の原賤しき職人なりしりども或る友人の奨励によりて大學に入り其際未だ不信者なれども右に記せる二人の導きにより又「モーレビアン」派の信者の導きによりて篤信の信者と爲れり卒業の後ハノーヴァー大學の神學教師と爲り五十一年間その職務を爲せり初め大學の教師と爲りし時其不信の流行の際なれば其新教師の信仰を笑ふ者多くありたれども漸く氏の感化力によりて大學の情況は大に變化せり又氏の教師の務めを爲し兼て大學説教者の務めを爲し其上居多の書を著しせり又チアンダの如く生徒中其大なる感化力ありて深く其生徒

を愛し生徒を扶くるとみ力を盡し而して數千人の信仰を獨したるにあり然れば氏の教壇の特別あるキリストの學校にてありしあり又氏の神學を教授する耳ならず口と行を以てキリストの精神を教へり獨逸にては當時右に列記せる著名なる學者の導きにより活る信仰を以て基督教を論ずる學者多く輩出して或は教會史を調べ或は註解を著し或は基督教の教義を討論するを以て大に神學を補益しとわれども本史の逐一詳記するに能はず

第三章 英吉利國

この世紀中其第十八世紀のウエスリー・ホイットフィールドの働きの結果は存しキリストの爲に働く精神を以て傳道會社および聖書會社を設立し又貧人の爲に働く精神の盛んに教會の中に行はれたる其他英國教會の中其儀式を重んずる黨派相起り是の儀式が就て大なる爭論を起せり

第一項 宗教上自由の進歩

第十七世紀の終頃すなはちウイリヤム三世が王位に上れるを以て英國にて新教の諸宗派の各自禮拜を爲すの自由を受けたりしが後ち英國教會を除くの外

其他の諸宗派の種々の事由を以て英國教會よりも一層劣れる有様お陥りたれども此世紀に至りて新教の諸宗派のみならず羅馬教徒も猶太教徒も各々至き自由を得たり今その二三の例を擧れば第十七世紀の法律に據れば一般の官吏たる者の必ず英國教會の會堂にて晚餐禮を祝せざるべからず此の法律の精神を準れば其人の縦ひ他宗派の信者なるも若し官吏と爲る時に必ず英國教會の風習に因りて晚餐禮を祝すべき筈あり又英國教會の牧師の外何人も葬事を祝すべからず乃ち英國の埋葬地の必ず會堂に屬する者なれば其墳墓に英國教會々堂の近傍に在り是故に他宗派の牧師が葬事を祝するとい最も不可ありと思ふ者多ければなり又英國教會に屬せざる者の何人も大學に入ることを禁するの法律ありたると是あり然れども漸々是の如き法律を廢して諸宗派の信者も不信者も悉く己が自由を任せて禮拜を爲し又官吏とも爲り議員とも爲り大學に入校するこの自由をも與へたり又紀元一千八百廿九年を以て羅馬教徒も至き自由を施し又同五十八年猶太教の信者も始めて英國會議の議員と爲るの權を與へたり又同六十九年アイルランドの監督教會の政府の干係

を離れて獨立教會と爲れり。

第二項 英國教會

〔第一〕オクスフォードの大學より起りし説、今より凡そ五十五年即ち紀元一千八百三十四年頃よりオクスフォード大學にて數人の神學者の各自心を合せて書を著し堅く教會の儀式を重んずる説を述べたり此徒の古の教會の風習を敬ひ又古の神學者の著書を出版して真正の教會の大體を守るべきことを教へり其中尤も著名なる者のニユニマンなり氏の嘗て日本譯の讚美歌第六十三番を作りし人なり氏の堅く教會の儀式を重んじ又古より傳へりし遺説及び其風習を重んずるが爲め遂に新教を捨て羅馬教徒と爲り今あは老年おして大監督の職に在れり其模楷に倣ひ新教より羅馬教に轉宗する者當時已に數百人もありたり其他羅馬教に轉宗せざる者も今一人の著名なる者をキプロルと云ふ氏の一年中の祝日小適へる讚美歌を編成するを以て其徒の説の大に進歩せり其中尤も著名なるの日本譯の第七番すなはち「我が靈のひかり」が教主よ云々」に在る是なり。

〔第二〕儀式を重んずる徒 右の説を受入れて教會の儀式を重んじ又古の風習を守れる者教會の中多しありたり此徒の説を據るに監督の使徒の後嗣なれば使徒より傳はりし權力を以て按手禮を施せり然れば其監督より按手禮を受けざる者の眞の牧師ふあらず眞の牧師ふあらざる者の祝する禮の眞の禮ふあらざるありと云へる在り之に依りて彼等の他の宗派の信者と交際を爲さずして却て大に羅馬教に似たる禮拜を爲したれば其教義も左程羅馬教と異あらず唯だ法皇が萬國の諸教會を支配する權ありとの説を受入れざるのみ斯く此徒が教會の儀式を重んじ羅馬教に類似せる禮服および儀式を用ふるを以て遂に大争論を生じ是の如きの決して英國教會の法式に適はずと云て此の風習を廢せんと思ふ者あり又この儀式を行ふ二三人の牧師を訴へて獄舎に入れしとさへありたり目下余が本史を講述するの際英國にての大監督が或る監督を吟味するの最中にてありしあり此徒の斯くまで儀式を重んずれども其中の熱心と以て極めて貧人及び基督教を宣傳ふる力を盡せし者もありたり

〔第三〕福音黨派 全く右の徒を反して改革を重んじカルウインの信仰箇

條を受入れ深く羅馬教に類似したる禮拜を忌嫌ふ者あり此徒の説よるに監督政治の教會も有益なる政治なれども唯この一個の政治のみが敢て純正無比の政治なりと云ふべからずとて自ら親切を現はして諸宗派の信者と交われり然れば右の徒と異ありて晩餐禮を就てハカルウイン説を受入れ又大禮を祝するよりも寧ろ説教を以て偏く道を宣傳ふることを大切と思へり此徒の今世紀の初頃甚だ多かりしが、オクスフォード神學者の説の起りしが爲に幾分か減殺せられたり目今其徒の中於て屈指の者のフョルあり氏の監督をして又著名の註解者ありき

〔第四〕教會を擴充せんとする徒 或の之を中立黨派と稱すべし此徒の儀式を重んずる徒とも異ありて親切に諸宗派の信者と交われり又福音黨派とも異なりて神學を固守することを大切と思はず乃ち國會を好みて成るべく全國の信者を一致せしめんと思ひ諸般の説を就て成るべく自由を與ふるの精神を有する者あり蓋し儀式を重んずる者ハ儀式を重んずるの自由を與へ儀式を好まざる者ハ儀式を廢するの自由を與へんと思ひしあり之に依りて神學

よりも愛心と義しき行爲を大切と思へり此徒の中著名ある者の同世紀八十一年に死せしスモンデーなり氏のウエストミンスターのアールと云へる教會の牧師にて問々他宗派の牧師も該教會の説教を頼み又黨派の議論を廢め各自自由を興ふる爲に大に力を用ひたりき。

〔第五〕英國教會の情況、當時英國教會より離れて他宗派に屬する者多く之れあるも拘はらず英國教會に屬する者の中英國人の最も多數を占めたり又右に述べたる如く此教會中自ら黨派を相爲し人よりて説を異せり而して此の教會に大監督二人監督三十人あり教會の員數の一萬三千有餘あり毎歲この監督および牧師の代員の會議あれども一般の信者は更其會議に干渉するの權なし然るもこの僧侶の會議に於ても教會の法律を設くる程の權なく唯だ帝國議會のみ此權を有せり然れば其權力の間接に僧侶に限らず偏く一般の信者も在りと云ふべきなれども僧侶の權の毫も一般の信者も之れなし乃ち大監督監督および國務大臣のみ此權を有てり又各教會の牧師を撰ぶ權力は是亦其教會員ならずして別人あり乃ち各教會の牧師を撰ぶ者の

各教會中唯一人の之ありて此權を有せり又牧師を任する權の古より傳はりたる權あり又その權を他人に賣與することを得べし若し此權を得たる者の信者の如何を顧みずして自恣に牧師を任することを得べし然れども若し不良人を撰んで牧師と爲すが如きとあらば監督の其牧師を否拒するの權を有せり又一般の牧師の給料の教會員より出さず又獨佛とも異ありて政府よりも出さず乃ち其幾分の教會の財産より他の幾分の地稅の中より出すこと爲せり。

第三項 他の宗派

獨立會即ち「ユニオンリゲーション」の教會の凡そ四千個計りあり此徒の之より先き各教會の獨立を重んじ過ぎたるが爲に幾分力を合せて働くこと於て怠りたりしが近頃総會又各地方の集會を設けて相互に力を合せて福音を弘むる爲に働きたれば大に進歩の色を現はせり。
又長老會即ち「プレスビテリアン」の教會の第十八世紀に至りて大に衰へ多くのソシニヤスの説を受入れてキリストが神たることを信するの信仰の大に衰退せしが近頃正しき教義を守る教會盛んお起りたり其教會の數の目今凡そ三百

個計りあり、

又「メソヂスト」派の三四の小派に分れり就中尤も會員の衆多ものハウニスリ一の宗派めて五十萬入あり、

又浸禮教會の幾分か盛んに行はれ其會員の凡そ三十萬人あり、

是等の諸宗派の全く自由を得たりしが其他監督教會あり此徒の中も政府の干係して英國教會と稱せらるゝとを好まず更政府の干渉を離れんと欲する者多くあれども果して政府の干渉を謝絶することを能くするや否や未だ知るべからず、

第四項 新宗派

此の世紀中お起りし新宗派お二種あり、

〔第一〕エルビン派、エルビンの原藤國の入おて同世紀廿二年を以てロン
ドンお來り或る大教會の牧師と爲りて其説教を聞く者頗る多かりしかども同
世紀三十年お彼れの異端を唱ふる者ありとの訴へを以て長老教會より放逐せ
られたれば新しき教會を設けたり其頃る方言を藉る能力ありとの説起りたり

シダ、エルビンの教會おての乃ち其方言とも想ふべき奇蹟を以て神を讚美する
者あるを見受けたり人々この方言お感じて現今おても昔時使徒時代の教會と
同一の恩賜を受くるとあるの當然なるべし又夫と同一く現今おても使徒等お
るべしと想ひ夫より此教會おて十二人の使徒を撰べりエルビンの同世紀三十
四年お死したれども此説の少しく存し又其教會も英國に幾分か遺りたれども
其數の知るべからず却説この教會おても儀式を重んじ禮拜を爲すお一定の祈
禱を用ひたり又使徒等の死せざる中おキリストの再降し給ふべしとの望みを
抱きたれどもキリストの其望みお逆ふて使徒等の漸々死すれども未だ再降し
給ふの前兆なし實おこの教會の歴史こそお誤りたる熱心の証と云ふべし、

〔第二〕アレマスの兄弟と云へる宗派、ダニエルと云へる説教者の導

きおより同世紀三十年おるアレマスと云へる處お於て此派を組織せるを以て
此派名を取りたるあり此徒の右の宗派と異なりて一定の僧侶たる者の無用な
ることを教へり其教義の他教會と左のみ異ならざれども決して他教會と交際せ
ず教會の七百五十個計りあれども是亦た二三お分裂せり其會員中おミヨと云

へる人あり毎々衆多の小兒を教育することを以て其大事業と爲せり今より二三
年前日本も來航せしとあり

第五項 福音同盟會

凡そ儀式を重んずる宗派を除くの外この世紀に至りて諸宗派の中空しき争
論を止め不信仰および不品行に反して専ら正道を宣傳ふるに盡力せんと欲
する者益々増加せり是の志望を以て同世紀四十六年ロンドンにて福音同盟會
と云へる會社を設け英國諸宗派の信者を首め他の諸國よりも相集まりて基督
教の大体を現はす九箇條の信仰箇條を決斷せり又四五年ごとく諸國の大親睦
會を開き基督教の進歩に關係することを論せり其第一回はロンドン第二回はパ
リス第三回はベルリン第四回は瑞士のゼチヤ第五回は和蘭第六回はニューヨ
ルク第七回は瑞士第八回は丁抹にて開けり又傳道本局ありて各國の支局を置
き又聯合會をも開けり特々米國にて此頃活潑ある熱心者を以て働けり又毎年
第一の週間に聯合祈禱會を開くと此の福音同盟會の勸告によりて盛んニ萬
國を行へる、お至れり乃ち此の聯合祈禱會を開くと印度等の宣教師の考案

に出でたるものあり又間々壓制を反對して宗教上自由の爲に働きたり
明治四年日本に全權公使が西洋に至りし時福音同盟會の委員を同公使の
許お遣はして日本へても基督教徒に自由を施すべきことを勸告しが如き其一例
あり

第六項 不信仰

此の世紀中教會の大進歩せしともありしが又退歩せしと即ち不信仰の陥り
しともありたり第十八世紀の不信仰者多し基督教を棄てしもの宗教を棄つる
となくして自然神教の如きものを教へたれども此の世紀に至りて凡ての宗
教を全く妄信と云へる者あり此の不信仰が就ては重々二種あり(一)或人の全く
獨逸の學問に心酔して獨逸國より起りし疑惑と不信仰とを受入れ其説を英語
に譯して弘むる者あり(二)或人の理化學等の著しく進歩せしと誇りて目
へざる證據を基づける宗教を輕んずる者あり蓋し想ふに當時は神の存在を
全く論破する者の甚だ夥しく今日の不信者の多く不可知論を主張するものな
り今その論點を據るに有限の人智は無限の大原因を究むるに足らずと云へる

お在り是故に萬物の大原因の必ず存在することを知れども其大原因の決して人智を以て測り知るべからざるものなりと爲り又勿論この説によりて黙示と其黙示の基づける基督教を捨て又萬有法を調ふるを力に盡して其の萬有法を戻れりと思ふ奇跡をも棄てたりこの不可知論者の中お於てスペンサーの尤も著名の者なり

第四章 蘇格蘭國

〔第一〕第十八世紀中の情況、前述の如く第十七世紀おナヤールス二世の壓制を盡して監督政治を立て之お服とざる者を嚴しく責めたりしが第十七世紀の終頃ろウイリヤム三世が位お上りし時より前の如く長老教會の蘇格蘭國教と爲り又且つ諸宗派も己れの禮拜を爲すべき自由を得たり第十八世紀に至りて迫害の起らざりしかども教會の情況の左のみ其からざると教會を束縛するとの否運お遇へり乃ち紀元一千七百十二年お英蘇合併して一國と爲りたるを以て帝國議會の強て法律を設け教師を撰ぶの權を教會より奪取り各教會に一人づゝの撰舉者を定めて全く之お委任したればなり則ち是の第三章第二

項の第五お於て述べたる英國教會と同一の風習たるあり然れば英國教會の素より此の風習お熟たるを以て左のみ苦情を鳴す者なけれども蘇國の教會の此の風習お從ふことを好まざりしが次第お此の規則お壓伏せられて之と共お活る信仰をも大お失へり之お依りて第十八世紀の後半紀お於ての辯才と學力とを盡して道義學を教ふる者ありたれども活る信仰を教ふる者お甚だ稀なり

〔第二〕一致教會、當時政府の施政お從ふことを好まざれば早くより本國の國會を離れて別個の教會を設立する者あり又政府の壓政お反するを以て教會より放逐せられし者もありたり而して其別お教會を設けし者お或の長老政治またの國會と同一の信仰箇條を守りたれども政府が教會お干渉する權威を全廢して各教會の隨意お教師を撰び其教師を給養すべきことを教へり其他些細の事お就ても種々の論ありて三四の小派お分離したれども紀元一千八百四十七年を以て多くの合併して一致教會なるものを設けたり其中お就てカルウインの神學あり又ウエストミンスタールの信仰箇條を信する者おれども是等の神學の幾分か寛かお守れり其教會の數の五百五十個あり日本お傳道せる蘇國の宣

教師ハ此の教會ヲ屬する人ナリ

〔第三〕自由教會 此の世紀ニ至リ蘇國々會の中ハ漸々活る信仰を失ひ遂ニ政府の壓制に負けて撰舉者ハ教師の撰舉を任すことを好まざる者益々増加せり又教會の大會ハてハ撰舉者より撰べられし者と雖も教會員多數の承諾なき以上ハ教師と爲すべからずとの規則を立てしが裁判所ハ其規則を廢したり是故ニ大會ハ帝國會議ニ上書して此規則を允可んことを請願したれども是亦た其上願を允さず是故に紀元一千八百四十三年ハ各教會の自由を重んずる徒ハ自ら教會を退くの外更ハ良法あるとみしと斷念し大會を開きし時此徒ハ其説を述べて遂ニ大會を退けり然レバ教師中凡そ三分の一ハ共ニ其教會を離れて新教會を設立するニ至れり此徒ハ右の一致教會と異なりて教會と政府の干係を全廢する心ナかりしと雖も教會ハ決して政府の壓制ハ負けるべからずとの精神を以て思はず知らず全く政府ハ干係せざる自由教會を立つるニ至りし然レバ則ち其教師たる者ハ直接ニ教會より撰舉し給料も亦た教會の自給する所ナリ現今其教會ハ一千有餘あり

〔第四〕チャルメルス(紀元一千七百八十年より全八百四十七年まで) 自由教會を設立するニ與かりて力ある大業傑ハチャルメルスナリ氏ハ少年の時より算術を好み且つ學術も上達せり十九歳ハして接手續を受け廿三歳の時教師と爲りしが當時一般の教師の如ク氏も亦た活る信仰ハければ今ハ教師たれども自ら大學ニ入學シ算術の教師と爲るべきを好み數年間教師と教師の二職を兼務せり其後病ヲ罹りてより深く神の恩惠ニ感じて活る信仰を起し直ちニ教師の職を辭して教師の務めを爲すニ専ら力盡し後ニグラスゴウ大教會の教師と爲りて八年の間説教を爲しまた貧人を扶くる等の大業を爲せり其後四年間道義學の教師と爲り又その後神學の教師と爲り熱心を盡して活る信仰を教へしを以て大ニ感化力ありたり又政府の壓制ニ反對して自由教會を設立するの先導者ト爲れり其他も自由教會の爲ニ働きたる神學者多クあれども逐一舉ぐるニ遑あらず

〔第五〕蘇國々會 同世紀七十四年ハ帝國會議ハ各教會ハ教師を撰ぶの自由を施せり今この教會ハ幾分か政府ニ依頼する者ハて教會の數ハ一千三百個

あり又その他アイルランドより移りし者もて羅馬教徒あり又少しく監督教會の信者もあり又「ユングリゲーション」の信者も少しくあれども蘇國人民の十中の九までの長老教會の信者なりしあり、

第五章 亞米利加國

第一項 教會が政府と干係する事

本國もても従前諸方の教會の秘密の政府に干係する者にてありしかども第十世紀の終頃る合衆國の政府を立てし時憲法を以て合衆國の教會に干係せず諸の宗教の自由を得せしむべきことを定めたり其模範に從ひ米國の各州の政府が教會に干係せざるに至れり是時歐洲の諸國と異ありて米國の諸宗教の自由ありて牧師の給料の之を政府より仰がず又諸税よりも出さず乃ち有志者の寄附金を以て支給すること爲れり斯く政府に宗教に干係せざるも一週一回の休日一般人民の庇益ありと思ひ又安息日に公けの商賣を爲すの衆人の妨害なりと思ひたれば遂に法律を設けて安息日への止むを得ざる事を除くの外一切の商賣を禁じたり又人民の概ね基督教の信者あるを以て合衆國の

議會の勿論各洲の議會もても日々議會を開く時必す牧師に依頼して祈禱を爲さしめたり夫のみならず獄舎の爲も又官立病院の爲も牧師を置く風あり又官立小學校もて毎朝聖書を讀み祈禱を爲すの風習も早くより諸方へ行なれたりしが之を就て議論を起せしとあり乃ち小學校もて宗教を併び教ふること最も肝要あると思ひ羅馬教信者の小兒の爲も特別の小學校を設立せんと欲する者あり又之を反して凡ての小兒を同一の小學校もて教育することを切要と思ひ毎朝の禮拜を廢して宗教上の教育の之を安息日學校に委任すべきを可とする者もありたり、

第二項 福音を信じる宗派

〔第一〕「ユングリゲーション」派 前述の如く米國の東北なる「ユナイテッド」派も次第に其地方へ行なれたれども現今は多く「ユングリゲーション」派の信者あり而して此の派は「ユニオン」派の外に擴張すると稍遅く又他の地方に移る者の概ね長老教會に加入せり然れども今を距ると凡そ四十年前より

盛んに北方の諸部を行つた。此派の徒は固より奴隸商賣を反對する心ありしを以て彼の奴隸商賣の盛んを行つた。南部諸邦にて行つた。然るに南北戦争の後、南方にても黒人の爲に働く者あり。又此の派の徒は多く知識を重んずるを以て早くより大學設立を力を盡し、已に米國に移住するの後に直ちハーバート大學を起し、其後コンチネンタルの牧師等の力を合せてエール大學を興せり。爾來善良ある大學の續々として起れり。又第一著は外國傳道會社を設立せし。此派の信者ありしなり。今亦は會員の數の割合より内傳道會の爲も尤も大なる働きを爲せり。教會の員數凡そ四千個あり。又此の派の各教會の獨立を重んずるが爲も恐らく近頃に至るまで同心協力の一途に至りての幾分か愈る所ありたれども、今より十四五年前始めて總會を設け、爾來三年ごとく會議を開くと爲れり。

〔第二〕浸禮教會 教會の員數凡そ二萬六千個ありて「メソヂスト」派を除くの外最も多きものなりしかども、其中に黑人種甚だ多し。近頃に至るまで此派の信者の多くは左のみ學術を重んぜざる者ありて、又此派の教會によりて立てら

られたる大學とての多からず。然れども此派の中にも有名の神學者之れありしと爲る。又此派の中にて更なる五六の別派あり。多分のカルウインの神學を守り、教會政治の「ユングリゲーション」と相同じ、又その別派の中にも土曜日を以て安息日と定むる者ありて、其教會の凡そ一百計あり。又右に述べたる如く「ユングリゲーション」と同一の教會政治を取れども、小兒の洗禮を廢し、又浸禮を受けざる者の共、晩餐禮を祝せざるを以て他の宗派と交際を爲さざるあり。

〔第三〕「クリスチアン」派 又弟子と云ふ。此派はカンネルと云へる説教者の働きより起りし故に、此宗派外の者の時として「カンネルの徒」と呼べり。此派も亦小兒の洗禮を廢して浸禮を行ひしが、其神學の浸禮派とも少く異なり。特に人間の造りし信仰箇條を悉く廢せり。教會の數凡そ五千一百個あり。亦有名の神學者の一人も出でしとなし、又教會政治の「ユングリゲーション」派と左のみ異ならず、又浸禮派よりも一層洗禮の力を重んぜり。

〔第四〕監督教會 (エビスコパル) 元來南部亞米利加に移住せし者の概ね此派の信者ありしが、後次第に北方諸國にも流行せり。現今教會の數凡そ三千二百

個計ありてニユーエルクポストン等の大市邑の富者の概ね此派の信者あり
又此教會にての大監督なる者なきも監督ハ六十五人ありて三年ごと小總會を
開き監督ハ其上員と爲り一般の牧師および一般信者の代員ハ下員と爲りて教
會の規則を設くる權あり而して其信仰關係ハ聊カ英國教會と異なるのみ

〔第五〕改革せし監督教會
リフオームトエビスユバル 紀元一千八百七
十三年に福音同盟會の集會の時一人の監督ハ他宗派の信者と共ハ晚餐禮を祝
ひければ監督派の信者ハ他宗派の信者と晚餐禮を祝ふべからずと云て其監督
を責めたるを以て彼ハ其徒を率て教會を離れ更ハ別個の教會を設けたり此
教會亦ても監督政治を有益なりと思て其政治を守りたれども他の教會と自由
ハ交際し又教會の大禮を守れども其大禮を過重するの說を棄てたり此派の起
源ハ殆んど獨逸國奮加持力派の起源と似たれども此派の教會ハ極めて微し

〔第六〕長老會
此派ハ尤も熾んあして現今教會の數ハ六千五百個あり然れ
ども奴隸商賣の事ハ就て南北ハ分れたる耳あらず今より五十年前ハ舊新説の
分れありて北方の教會ハ又た二派ハ分れたり而して舊説の徒ハカルウインの

神學を確守したれども新説の徒ハ之を固く守らず更ハ「コングリゲーション」派
と交際を結びて與ハ働くことを好めり斯の如く三十三年の間舊新説の分れあり
たれども今より二十年前ハ雙方一致せり此派の信者は學術を重んじ有名の神
學者多く起りしとあり此派ハ初メ「コングリゲーション」派と共ハ外國傳道ハ從
事せしかども後ハ別個の傳道會社を設けて傳道の爲ハ力を盡せり

〔第七〕コンプロントの長老會
此派ハ第十九世紀の初頃長老會より離
れし者あり此の地方ハ未だ開化せざれども嘗て大「リバイバル」の起りし時信者
ハ大ハ増加せしかども其中ハ神學を卒業して按手禮を受くるハ足るべき者甚
だ稀あるを以て止むを得ず左程の學識なき者ハも按手禮を施して傳道せしめ
たり是故ハ大會ハ之を嚴しく責めたるを以て遂ハ其地方の教會ハ其大會より
離れて別派を開き其地名を以て「コンプロント長老會」と云へり教會政治ハ全ク
長老會と同一神學ハカルウイン説を堅く守る耳あらず更ハ神の恩惠の洪大
あるを強く教へり教會の數ハ凡そ二千五百個あり而して此派ハ於ても日本ハ
傳道者を遣くりしとあり

〔第八〕一致長老教會、蘇國ハ長老教會の分派ハ頗る多種ありて蘇國より米國ハ移りし者の中ハも同様の分派ありたれども後チ夫等の數小分派ハ漸ク一致して一致長老教會の名を附したり然れども之ハ日本ハ來れる長老教會ハ更ニ干係を有せず此教會の數ハ凡ソ八百五十個あり信仰箇條および教會政治ハ長老教會ト異ならず唯だ他の教會ト異ある所ハ他教會の信者ト共ニ晚餐禮を祝ふことを允さざる是カリ乃チ他の教會員ハ己ガ教會の戒規の下ニ在らざるガ故ニ恐クハ其中ハ不潔者カキことを信ぜべカラざレバカリ又詩篇ハ聖靈ハ感じて造られし者ナレバ教會ハ何時モ必ず用ふべき者ありと思ふガ故ニ詩篇を翻譯せるもの、外他の讚美歌を教會の禮拜ハ用ふることを允さざる是カリ

〔第九〕改革教會、此教會員ハ多く和蘭ヨリ移りし者の後裔ナリ元來ニユールク及び其地方ハ住する者ハ多く和蘭人カリシ故ニ此の教會ハ其地方ハ於テ盛んハ行ハレたり又近頃和蘭ヨリ米國の内地ハ移りし者あり此教會の數ハ凡ソ五百廿個あり教會政治ハ長老教會ト異あらず又トルトの會議第十時代の第三章ハ於テ決着セシ信仰箇條を受入れてカルウインの神學を堅ク守レリ

又其他ハ獨逸國ヨリ移りテ改革教會を設けし者多シ其教會ハ八百個計リありテ教會政治ハ右ト同ジけれどもカルウインの神學ニ左程堅ク守らずして特ニ「ハイテルメルグ」問答を用エ第九時代第二章第六項

〔第十〕「メソヂスト」教會、ウエスリーの前ハ述ベシ如ク二三年間米國ハ止まりテ傳道の爲ハ力を盡セシ耳ナらず夙ハ傳道者を米國ハ送レリ然レバ米國ハ「メソヂスト」教會ハ尤モ盛んカリト云ふベシ其傳道者ハ特に未開の地方ハ到リ非常の艱難辛苦ハ忍耐して專バ基督敎を傳ふるを以テ一大事業ト爲セリ而シテ「メソヂスト」教會の分派ハ甚ダ多く之レハれども十中の九までの監督ある派ハ屬セリ又南北ハ分レたり其外監督カキ派あり黑人種の教會あり米國ハ此派ハ尤モ數の多シものハ現今詳シク知るベカラざレども凡ソ三萬個計リあり此派の傳道者ハ特更ニ無學者の爲ハ勸サシトあり此派の中ハ學者モあり又有名の神學者モありたれども其大なる榮譽トする所ハ熱心を盡シテ諸國ハ傳道セシト是ナリ然レバ學問ヨリモ何ヨリモ此派の信者ハウエスリーの如クアルミニアスの神學を受入れて人間の自由責任を重んずる者ハてあ

りしなり是故に説教者が演壇に立ちて説教する時に、必ず人心の感動を惹起す様を説教する風あり、又大聲を發して説教する風あり、又毎年各地方にて野外説教を爲す風あり、却説此派の他派と異なる所の教會の牧師を撰ぶの自由あり、監督の牧師の働く所を定め二三年ごとく、牧師の働くべき場所を變更する是あり。

〔第十一〕ルーテル教會

獨逸國より米國に移住せし者甚だ多きを以て

ルーテル教會も亦た熾んなり、其教會の數凡そ六千二百個あり、此教會にての專ばらルーテルの教義及びオックスメルグの信仰箇條第九時代第二章第六項を守りたれども、三派に分裂して英語を用ひ、又他の教會と交はりて堅くルーテル説を守らざる者あり、又獨逸語を用ひて堅くルーテルの説を用ひ、他の教會と交際せざる者もありたり。

右に列記せる諸宗派の教會政治および禮拜の風習を就て異なる所おれども、其福音の大体を信ずるとお於て、更にお異狀あるとなし、乃ち神の存在のと、キリストが神たること、キリストの贖ふよりて救はると、聖靈の恩祐の必要あること、未來の

5

生命と刑罰を信ずると等あり、何れの宗派によるも神の恩恵を受ければ、何人も救はるゝと能はず、雖も罪を悔改めてキリストにお依頼する者の必ず聖靈の恩祐を得て全く救はることを得べし、又此の諸派に屬する教會の數、合計八萬六千個計あり、其會員の小兒を除くの外、大人のみおて一千萬餘あり、其他小兒あり、晩餐禮を祝せざる賛成者ある者、其數幾許あるを知らず。

第三項 福音を受けざる教會併に羅馬教會

右に記せる諸宗派の悉く福音の大体を受入れるれども、羅馬法皇の權力を受けざる者ありしが、左に記載する宗派の福音の教を充分お受入れざる者あり、或は羅馬法皇の權力を受入れる者あり。

〔第一〕「ユニテリアン派」(二神教) シシニヤスの説(第十時代第六章第二)の

初め、英米國おても流行せしが、今世紀の初頃ニ、ユニオングラントのポストンおても、其説を受入れ、遂に「ユングリゲーション」派より分離する教會ありたり、不幸おして、フレマスの教會、ポストンの第一教會、其分離者の中おありたり、而れども、其地方の外お於て、此の教會に屬する者もつども、尠なし、現今其教會の三百六

十個計りあり、其中有名の文學者、詩人等多く之れありしを以て其評判の左程惡からず、此派の徒の中、三位一體の說の全く道理に適はずと思ふて之を偏せざれども、キリストの教をた神の默示を敬ふ者あり、又全く基督教を棄て自由宗教を教ふる者もありたり。

〔第二〕「ユニフェリスト派」(萬民悉く救へるの教) 此派の徒は神の愛心を誤解して善人も惡人も漸く至き救を受くべしとの說を爲せり、教會の凡そ七百八十個あり。

〔第三〕「再降教會」 此派の徒は今より五十年前キリストの再び此世に降り給ふべしとの望みを懷き、各々職業を廢めてキリストに遇ふべき準備を爲したり、然れども其望みの全く誤りたるものにして、人々失望せしむも拘らず、今はキリストの再降を重んじて別個の教會を設けしものあり、此派の說は、人人間の傳道よりて基督教の全世界に弘まるものにあらず、キリストの顯れ給ふ時、人の必ず教會を救ひ世の惡人を罰し給ふべしと云へり、此教會の詳しく知るべからざれども、凡そ六百個計りあり。

〔第四〕「クエーカー派」 此派の起源は第十時代第四章第六項に記載したりしが、米國へても此派の信者あり、前述の如く此派の元來非常な混雜せしが爲に、輕蔑せらる、者ありしかども、後其混雜も治まり、輕蔑も止みて始めて自由を得たり、其教會の凡そ四百個あり、信者の左程多からず、其中奴隸商賣の惡風を廢せんとする力を盡す者もありたり、又此派の二分して他宗派と同じく福音の大体を信する者あり、又「ユニテリアン派」と同じく一神說を信する者もありたり、又此徒の一般人民と異なる衣服を着け、凡ての飾具を棄て、教會の大禮をも廢せしとあり、又禮拜を爲すに黙禱を大切と思へり。

〔第五〕「羅馬教」 此信者の米國へても甚だ多く、小兒を併せて七百萬人あり、教會の數は凡そ六千二百個あり、而して此徒の十中の九分のアイルランドより移住せし者なり、彼等の本國へて貧窮し、羅馬教を携へて米國へ來れる者あり。

第四項 偽りの宗教

〔第一〕「モルモン教」 今を距ると凡そ六十年前スミスと云へる者あり、神の默示を受けたりと宣言し、且つ天使の導きよりて、咸る土中より金板を發掘し

其金板を銘せる奇字を讀み又之を英語に譯して出版せり其談よるお太古イ
 スラエル人は米國に移りたるをり又一千四百年前おモルモンと云へる預言
 者お神の默示を受け其預言を此の金板に銘して土中に埋藏せしなり是等
 の事より聊か此默示を信する者ありて教會を起すお至りたれども一般人民
 の詬罵を避け夫より西方に移りて別お市邑を設けたりしが其地方の人々も亦
 た此教會を忌嫌ふ耳あらず迫害を起して遂おスミスを殺せり是に依りて自餘
 の者おモンゴの誘引およりて夫より更お西方に移り凡そ四百四十里計り隔り
 たるユダ洲に至り衆人お遠かれる地お於て新殖民地を開き其處おて人々農業
 を爲すを以て幾分か漸く盛んあるお至り現今其地方お十五萬人の信徒あり
 又歐洲諸國お傳道者を送り種々の約束を以て無學の貧民を招集めり此徒の聖
 書を受くれども其説く所る多くの聖書お基つさしものおあらず唯だ己れの想
 像臆説のみ而して聖書よりも何よりも己れの預言者が受けたる默示を以て大
 切なるものと思ひ多妻を娶ることを允せり其政治の頗る壓制おて信徒の全く其
 首長たる者の權下お在り却説その地方お住居する者の長くモルモン人のみお

りしを以て其首長たる者の悉く其地方の政權を奪取れり然るお現今人員の増
 加甚だ盛んおされども其人口の九分の此の徒なるを以て多妻を禁する法律を實
 行するとの決して容易の事業にあらざれども合衆政府の働きおよりて其首長
 たる者の權力の幾分か減殺せられたり

〔第二〕「シエーカ」派、此派の第十八世紀中英國おて起れり初めアンナリ
 ーと云へる婦人を預言者なりと思ひ其婦人の默示を信じて此人のキリスト再
 降の榮光を顯のす者ありと思へり今より凡そ一百年前此の婦人の導きおより
 て其徒十人計り米國お移りたりしが其後ち漸く増加して現今十七個の會社を
 有せり彼等は他の會社を離れ其會社の徒と共に住居して所有を共おせり又全
 く婚姻を廢せりと云ふ

第六章 外國の傳道

前お述べし如く第十八世紀の終頃お至るまで新教の教會中より外國お傳道す
 るとは尤も甚かりしが同世紀の終頃お至りて傳道の熱心盛んお起り第十九世
 紀中外國の傳道尤も盛んお諸方お行ゆる、お至れり蓋し此の傳道の歴史を

熟考するに基督教信仰心の衰退せることを主張する者の全く虚言たることを知るべし凡そ學術を過重するが爲め目小賭へざる信仰心の衰へたる者幾分か之れなしと爲されども一般の信者の前よりもキリストを信じ、キリストの爲め働く熱心と尤も進歩せりと云ふべし。

第一項 傳道の起源併に各國に傳道會社

外國傳道の精神を起せるの間接にホイットフィールド等の説教に因りて起りし信仰の結果と云ふべきものあれば僅に二人の働きに歸すべからざるあり其中に就てケリーの第一の傳道會社を設立するに大なる働きを爲せるを以て尤も稱譽すべき人あり。

〔第一〕ケリー(紀元一千七百六十一年より全八百三十四年まで)氏の英國の人にて實しき靴工ありしが少年の時より大に學問を重んじ家業の餘暇刻苦勉勵して有る程の書を研究するを以て次第に學識を蓄へ後ち浸禮教會の牧師と爲りて牧師と靴工の二業を兼務せり然れども其教會の一小村落の貧教會をこれに些細の給料を受けて氏の常々貧究したれども毫も其貧究を顧慮す却て他人

の情況を憂へ又外國の情況を調べて實に異教信者の憐むべきことを悲しみ己の福音を曉れる信者の必ず未だ其幸福を得ざる者小神の恩恵を顯すべき責任あることを感じ嘗て其地方牧師の集會に於て其説を述べたれども他の牧師等之を賛成せず特に一老牧師あり氏に向て神が他國人を救ひ給ふ聖意あらば決して我情の助けを要し給はずと云ひたることさへありたり是時に方りて維氏の説を賛成する者あるども其教會の貧なるに未だ漁船の設けあきとを以て遠國に傳道すると難く路費も亦た頗る支へ難かるべし唯だ相互に熱談の末ケリー其意見を書して諸教會に報告すべきことを承認せり其翌年すなわち紀元一千七百九十二年其地方牧師の年會に於てケリーの以賽亞書五十四章二三節を題として一場の説教を爲したり乃ち第一の神より大なる者を望むべし第二の神と共に大事業を成すべしと云て大に其牧師等を奨勵しかば人々氏の熱心を感じたれども誰一人も其事を決着する者もなく空しく散會せんとしたるを以て氏の涙を流して大に哀しみつ、頻りに其友人等に奨勵たりしを以て來る十月の集會の際に必ず氏の希望の如く傳道會社を設くべきことを決斷せり其

決斷し應じ同年十月の集會に於て始めて浸禮教會の傳道會社を設け有志者の寄附金を集むること爲れりケリーの固より貧困にして寸金の貯蓄なければ己れの身を献げ傳道會社より外國に出づべきことを約束せり是等の事より此の傳道會社の前印度傳道者を送り後西印度の諸嶋亞弗利加支那及び日本も働けり

〔第二〕英國の他の傳道會社、右の傳道會社が始めて設立せられしより後凡そ三年の間に今一個の傳道會社出來たり此の會社の宗派の隔なく有志者の一致連合し事を傳道する望みを懷て此會社を設立せり而して此をロンドンの傳道會社と云ふ然るも其後他の宗派の各々別個の傳道會社を設くるに至りたれば此のロンドン傳道會社に働く者の唯「ユングリゲーション」派のみと爲れり此會社の前太平洋海の諸嶋に傳道者を送り後亞弗利加印度支那マダガスカル等も傳道せしめたり而して此會社より出でたる傳道者中ウイリヤム・モハット・レビングストンの如き尤も屈指の人あり夫より四年を経て乃ち紀元一千七百九十九年に英國教會の中へても傳道志願の者相謀りて傳道會

社を設立せしが最初英國へての外國へ出て傳道する者甚だ擧なきを以て獨逸人を備ふて傳道を送りたりしかども英國人の中へても外國傳道に熱心なる者次第増加するに至れり然れば此會社の初め亞弗利加傳道士を送り夫より印度支那日本にも傳道者を送れり中へて現今大坂に働ける英國の宣教師の此會社より出でし者あり又この會社の英國諸會社の中へても最も富有なる會社なれば一年間の寄附金の凡そ一百万圓計りなりと云ふ其後「メソヂスト」派へても傳道會社を設け特太平洋海の諸嶋に於て大なる働きを爲したるあり又之より先第一着を起ししもの即ち紀元一千七百一年に起りしもの福音擴張會社なりしが此會社の専ら英國の殖民地に牧師を送りて傳道せしめられたるも未だ異教信者の爲に傳道せしとなし第十九世紀に至りて此會社も益々盛大になりゆきたれば異教信者の爲にも働きを爲すに至れり然れども此會社の徒の監督政治を過重し時として監督なき傳道會社の働きに干渉せしめたりたり右に列記せるの外英國へての小宗派の會社或は特別の會社あるもの幾許もあれども本史の詳か記載する由なれば自餘の唯だ一のみを記し

て止まんと欲す即ち紀元一千八百六十五年お起りし支那内地傳道會社あるも
 の是なり此會社のテローラと云へる人の熱心およりて出來たる會社にて専ら
 支那内地の爲お働くものにて其傳道者の支那土人の衣服を着け其他全く支那
 の風習お從ひ成るべく節儉を主として傳道せり。

〔第三〕蘇國傳道會社、蘇國に傳道會社の起りしことの特おロツクの働さ
 お基づけり紀元一千八百二十九年お氏お始めて傳道士と爲りて印度お航り五
 六年間其地お働きたりしが其後ち病お罹りて本國に歸り屢々諸方を巡廻して
 熱心お萬國の人お道を宣傳へざるべからざることを主張せしを以て本國おても
 傳道の精神熾んお起れり而して本國の教會お二分せし時他國お出て働さをれ
 る宣教師の咸く自由教會お服するに至り益々傳道の熱心起れり却説蘇國長老
 教會の三派お分れたりしが其三派共お各々傳道會社を組織して南部亞弗利加
 印度支那お働けり又其中に少しく日本お働ける者あり。

〔第四〕米國傳道會社、米國おて第一の傳道會社の紀元一千八百十年お起
 りし「アメリカンボード」と云へる會社おて初め僅々四五人の神學生の熱心およ

りて成立ちしものあり特おミルは大學お在りし時數人の朋友と共お屢々外國
 人の情態を考へて彼等の爲お熱心ある祈禱を爲したりしが大學卒業の後ち神
 學校に入りて四人の同好を得たり然れば此五人の卒業の期已に近きお迫され
 る時其地方教師の集會お於て外國傳道の志望を報告して助成を得んことを請求
 したれば教師等大に其熱心お感動して始めて此の會社を設立するに至りしな
 り此の會社より始めて出でたる傳道士の印度に傳道し其後ち大平海の布哇島
 お於て尤も大なる事業を爲せり又土耳其亞弗利加支那日本お働けり初め此の
 會社を創設せし時の彼此の宗派を問はず特志者相集まりて與お働きたれども
 現今此會社お働く者の概ね「コングレゲーション」派の者と爲れり又此會社より
 始めて出でたる傳道士の中印度に航る船中浸禮教會お轉派する者二人ありし
 故お其二人の依頼お應じて浸禮教會おても傳道會社を設けたり其會社おてハ
 特おヒルマ國おて大なる事業を爲し夫より印度支那日本お働けり其二人の中
 ハ「デソンの尤も有名の人なり又長老教會の信者も數年間「アメリカンボード」お
 働きたれども後ち漸く別個の會社を設立してスリヤ波斯印度支那日本お働け

り凡そ米國傳道會社の中於て此の長老教會の傳道會社の尤も大金の集まる會社なり其他米國の多くの傳道會社あれども逐一枚舉するに遑わらず。

〔第五〕獨逸傳道會社、獨逸の教會中の傳道の熱心左程熾んならざれども傳道會社の凡そ十個若くは十一個計りありて亞弗利加印度を働けり。

〔第六〕佛國傳道會社、佛國の新政の信者甚だ多きも猶ほ傳道會社を設けて南部亞弗利加を働けり。

其他和蘭瑞典丁抹も傳道會社あれども左程大なるものなし。

〔第七〕傳道會社の統計表、詳かみ知るべからざれども凡そ傳道會社の數の七十個あり就中英蘇二國に廿三個米國に廿二個獨逸に九個其他の諸國に十六個あり傳道者の男子のみもて英蘇二國に一千六百人米國に七百人獨逸二國に五百廿人其他の諸國に一百十五人あり合計凡そ二千九百五十八人あり然れども此は今より四五年前の統計表を據りたるものなれば其後益々増加して現今の三千有餘人に至りしならん又其中於て言語の十中の八分計り英語を用ふる者あり又寄附金の英蘇二國に於て凡そ五百萬圓米國にて凡そ二百五十

萬圓獨逸に凡そ八十萬圓其他の諸國に凡そ三十萬圓合計八百六十萬圓ありれども其中の八分餘の英米二國より出づ又右に述べたる男子の外近頃英米國より出でたる女教師多くありて彼等の婦人の爲に大事業を爲したるもあり然れども其他の獨逸等より女教師の出でしと稱あり又米國にて傳道士の爲に別個の學校を設けしとなければ本國より出づる傳道士の概ね大學卒業の者あり英國より出づる傳道士の中幾人の大學卒業生あれども本國にて傳道學校を立て傳道士と爲らんとする者を特別に教育する風あれば此學校を卒業して諸國に傳道せり又獨逸にても傳道士の大學卒業生尠なく多くの傳道學校にて教育を受けたる者なり。

第二項 日本國

新教の傳道者の紀元一千八百五十九年に始めて本國に來りたれども當時公けお基督教を傳ふるに能はざりしが維新以來國勢益々進歩し開化の機運漸く來れるを以て傳道者の大に増加せり然れば米國の多くの傳道會社また英國も二三の會社の本國の傳道に從事せり爾來日本にて國勢の進歩すると共に

基督教も熾んふ行ひる、を以て傳道に従事する者の大に喜悅と安慰を得たり。又其傳道の場合を見て特にお喜ぶべき日本人がキリストの爲に働いて熱心是なり是故に牧師も傳道士も多く起り且つ牧師を自給する教會多く又傳道會社を設けて傳道士を養成せり。

第三項 支那國

〔第一〕支那國の情況、古來本國を行はる、教は三種あり(一)儒教(二)佛敎(三)「マオ敎」是なり本國の人民の此三種類ともお受入れたり又此外より傳はれる多くの妄信あり本國の人民の多くの宗教の儀式を守りたれども神を敬ふ赤心なく唯その大目的とする所の拜金の一事に在りて如何ある耻辱を受くるとも金錢を儲くるを以て最上の目的と爲せり其人口の甚だ夥きものゝて全世界人口の四分の一を占めたり。

〔第二〕傳道の起源、抑も第七世紀の頃、彼の「マストリアン派」の傳道士の支那の西邊に至るまで傳道せしとありしが其働きの結果の少しも遺らず又第十六世紀より羅馬敎の傳道士の熱心本國に傳道したれども意外にも異敎の

風習に従ふを以て大争論の生せしとあり而して新教徒が本國に傳道せしとの紀元一千八百七年を以て其起源とす是時モリソンの「ロンドン傳道會社」の傳道士と爲りて本國に來り廿七年間すなはち死する迄本國に働けり然るも本國にての公けお基督教を宣傳する自由なかりしを以て氏の英華字典を作り又一友人と共に聖書を支那語に翻譯するを以て傳道の準備を爲せり氏の如くして七年の間働きて同世紀十四年お至り自ら潜伏して最初の信者お始めて洗禮を施せり又紀元一千八百三十年より米國「アメリカンボード」の支那に傳道者を送りて傳道に従事せしめたり其中尤も著名ある人の「ウイリヤム」なり氏の四十年の間支那に働きて又華英字典を著はせり然るも同世紀四十二年お至るまで外國人の支那に居留するの自由なく且つ甚だ傳道上の妨害少からざるを以て目お賭ゆる程の著しき結果を奏すると能はず又同世紀四十二年より同六十一年まで開港は僅かに五ヶ處のみおされ内地に傳道すると能はざりしあり。

〔第三〕傳道の進歩、然るも同六十一年より以降何れの處にも傳道の自由を得たれば傳道士の大に増加したれども現今なは未開の地方甚だ多し本國の

傳道小從事せる會社の凡そ四十個傳道者の男子五百廿六人本國教會の牧師の
一百六十二人會員の三萬五千人あり

第四項 ビルマ國

〔第一〕ビルマ國の情況、本國の印度と支那の中央に在りて佛教の甚盛
んある國あり元來本國の獨立國ありしかども今より六十二年前に幾分か英國
の所屬と爲り一昨年を以て全國舉りて英領と爲れり蓋し國王が諸の壓制と殘
酷とを盡して國政を執りしを以て斯く獨立を失ふに至りしあり現今人口の凡
そ六百五十萬人あり

〔第二〕傳道の起源、初めて本國に傳道せし萊傑のジョヤンンあり氏の米
國の人にて大學を卒業せし時未だ信仰あかりしかども其後ち信仰を起し
て神學校に入り紀元一千八百十年を以てミルと共に其地方の牧師の書を贈り
之に依りて米國「アメリカンボード」より送られて印度に航するの際浸禮教會
に轉派せるを以て其目的を變じてビルマ國に到り三十八年間すなはち死する
まで其處に働き且つ一人の働きを以て舊新聖書を緬甸語に譯せり氏の此の

聖書を國王に進呈せんとて都に上れるの際本國と英國との間に戰爭を起せし
を以て王の外國人を威く警敵なりと思ひ忽ち氏を執へて十七ヶ月の間尤も汚
穢たる獄舎に繋ぎて非常な苦勞に耐えられたる其妻の種々の患難に忍耐し夫を助けん
が爲に働けり其疲勞より夫の赦されし後ち直ち死したり本國にても其
初めの道を聞く者甚だ少く氏は六年間働き始めて信者を得て洗禮を施せり

〔第三〕「カーレン」人種の名

當時ビルマ國に屬したれどもビルマ人
と異なる人種にて「カーレン」と云へる人種ありジョヤンンのビルマ國に十五
年の間働き而して後ち始めて此の人種に遇へり當時彼等の全く野蠻にして無
學識味あれは固より一定の宗教なく今やジョヤンンの彼等と遇ふて道を語り
ければ彼等大に喜びて福音を聞きたり加之あらず此の如き人種の中よりも後
ちの熱心とを以て道を宣傳へる説教者も起り又早くより己れの教會の牧師を
自給するの精神をも起すに至れり

〔第四〕ビルマ國現今の情況

現今に至るまでビルマ國に働きたる傳道
士の多く浸禮教會の人なり而して「カーレン」人の中にあつて傳道の尤も盛んに行

の信者あり然れば「カーレン」の信者の二萬五千人あれども、ヒルマ人の中への幾人の信者あるや知るべからず恐らく左のみ盛んならざりしあらん。

第五項 印度國

〔第一〕印度國の情況、この國の人口の最も夥きものにして現今凡そ二億五千萬人あり支那を除くの外全世界に於て尤も人口の多き國なり又支那と異なりて一類の人類に非ずして數多の人類あれば國語も亦た廿五種あり宗教も亦た多種あるべし就中婆羅門教徒の一億四千萬人あり回教徒の四千萬人あり其他小宗派に屬する者あり印度の太古より本國の獨立を失ひ且つ中頃回教徒の爲に打負け其後西洋各國の印度にて商路を拓き爾來本國の權力をも奪取り漸く第十八世紀の中頃より英國人の大勝利を取りて多分の權勢を奪ひたれば現今印度の多分の直接に英國の支配下あり自餘も亦た間接に英國に屬せり。

〔第二〕傳道の起、前記述ふる如く第十八世紀の初頃より丁抹の傳道會社の始めて印度の東南地方に傳道士を送りツイゲシバルン、シニワルツの二人

の其處にて大名譽を得たり又紀元一千七百九十三年にケリーの印度に航りて死すまで四十年間働けり氏の原無學の靴商人ありしかども青年の時より外國語を學ぶとを好み刻苦勉勵して印度諸種の語を學び又聖書を種々の語に翻譯するを以て大事業と爲せり却説印度の長き間直接に英國政府の下にあらざりて英國貿易會社の支配下にあり其會社の基督教の傳道の恐らく商業の妨害ありと妄想し一般の傳道者を己れの支配下に在る印度地方に入ることを許さざりき是故にケリーの專ら丁抹に屬する地方に於て働けり又「アメリカンボード」の傳道者が印度に來りし時にも會社の支配下に在る地方に止まるとを禁せられしを以て大に困却し更其會社に屬せざる地方を搜索して傳道せざるを得ざるの場合なりしが紀元一千八百十三年に英國政府の命令によりて傳道者の印度にて自由な傳道するを得るに至れり又同世紀五十八年を以て英政府の貿易會社を廢し直接に印度を支配するに至りしあり。

〔第三〕ヘンリー・マルチン、氏の三十一歳にして死したりしが最も有名なる傳道者なり氏の英國の人にて嘗て大學に在るの日大なる名譽を得たり後

ち大學の教師と爲りしが固より外國に傳道する熱心ありたれば直ち大學の榮譽を蒙りて英國兵卒の牧師と爲り印度に出で事ばら牧師の務めを爲し且つ國語を學びて土人の爲に働きたり又新約聖書を印度語に譯し又其地方に波斯語を用ふる者ありし故に新約聖書を波斯語にも譯せり凡そ六年の間印度に働きたる後疲勞を得て本國に返らんと欲せしが不幸にして途中にて死したり紀元一千八百二十二年蓋し氏が傳道の時日の甚だ短かけれども其熱心の結果に決して少くならず其感化力の最も廣大なるものなりしあり

〔第四〕ドツフ(紀元一千八百六年より全七十八年まで) 是亦た前記の如く氏の蘇國の人にて廿四歳の時印度に航り其地方の傳道者中尤も著名の傑出たり然れば大なる熱心を以て基督教を教へ特にお青年の爲に働きたり正しき教育を以て世の不信又の妄信を反對して聖道を宣傳へりその印度に航海するの際不幸にして破船に遇ひたれば荷物の勿論諸の書籍をも失ひたれども毫も失望の念なく其印度に達するや或る一字の舊びたる講堂を借り受けて生徒を集め此處にて英語を教授したりしが後漸く大なる學校と爲りたり其後ち疲勞を得

て本國に返りたれども本國にても又米國にても傳道心を起す大なる働きを爲したり

〔第五〕傳道の妨害 印度の英國の屬領なれば政府の決して基督教を反對

するところなしと雖も又た是の屬領人々強て基督教を教ふることを好まざれば只彼等々の宗教上の自由を興へたり是故に英政府の直接に妨害を爲さざるも政府の立てたる學校にての宗教を教ふることを允さず是故に同校の生徒中その西洋の學問を學びて眞道を學ばず併せて本國の宗教をも全廢する者多し然れば是等を除くの外に於て基督教の進歩の妨害を爲す者種々あれども就中二種を擧ぐべし(甲)と社會の階級是あり凡そ土等の階級に在る者の下等社會と交はるを以て限りなき汚穢と思へり又この階級の精神に基督教の聖訓ある兩會の皆あ兄弟ありとの詞が戻れるものあれば上等階級の者にして基督教者と爲るとの最も困難なるとなり若し其人が信者と爲る時忽ち位階を貶され親族も棄てられて立地も下賤の身と爲らざるべからず(乙)此の妨げを感じて云へるとあり「ソマ」人上等階級の者が基督教者と爲るとの死體の懸へるが如し

是故神之恩惠よりて此の賤りの事を記憶し彼等の中にも猶ほ信者と爲る者多けれども之より先き右の如き妨げよりて信者と爲る者の概ね下位の賤人ありし故に牧師と爲る者少く且つ牧師を給養するとすら甚だ難かりしたり。

(乙)の婦人の情況是なり印度の婦人の固より自由なれば集會に出づると能はず又之に依りて道を聞くの機會少く又之に依りて信者と爲るとも甚だ難かりしなり又この國にて女子生れて五六歳に至れば必ず夫婦の約束を結ぶ風習あり若し其夫死すれば終身寡婦と爲らざるべからず縦ひ其身の妙齡あるも終身他人に再び嫁するに能はず且つ其情況の殆んど奴隸と同じければ婦人の教育の極めて稀なるものなり。

〔第六〕現今の情況、現今印度に傳道せる會社の英米獨の三ヶ國にて合せて三十八個あり男子の傳道者ハ六百六十人あり信者の凡そ四十一萬人あり又基督教學校の生徒ハ十八萬人ありその信者の多分の南印度に在り。

第六項 土耳其國

土耳其の人口の凡そ二千二百萬人れども真正の土耳其人の其半部にして皆回教の信者ありこの國にても基督教の宗派幾許もありて希臘教の信者もあり「アルメニア」派の信者もあり又「ネストリアン」派の信者も少しくあるべし而して彼の回教の中より基督教に入りし者の極めて少なく一人もあるとなしと云て可なるべし蓋し近頃に至るまで土耳其政府の回教徒が基督教に入るとを嚴禁したればあり茲に紀元一千八百三十年より「アメリカンボード」の傳道者の本國に來り「アルメニア」派の信者の爲に働きて彼等の教會を勵まさんと思ひたれども其信者の後次第に原の教會を離れて新教の教會を設立するに至れり其教會の數ハ凡そ一百個にして信者の九千人あり其他米國長老教會の傳道者のスリヤに働き又土耳其と波斯との境にあり「ネストリアン」派の爲に働けり又米國一致長老教會の傳道者のエシフトに働けり又傳道會社の働きの關係する大學校四個あり其他に多くの小學校を設立して教育上の爲に大なる事業を奏せしとあり「アルメニア」派の徒も是の熱心な倣ふて信仰を回復し教育を勵めしともありたり。

第七項 亞弗利加國

(第一)其國の情況、人口の支那印度に次ぎて凡そ二億萬人あり其中の少
 分を除くの外、皆黒人種かれども地方よりて大に其性質を異せり又外
 國に屬する國もあり獨立の國もあり却て其傳道上の妨げお就て種々あれど
 も其妨げを以て開化を進みしとあり又内地の未だ旅人の通行せざりし處少
 からず今を距ると二三十年前より旅客の盡力よりて地理學大に進み内地の
 情況を知るとを得たれども未だ發見せざる處甚だ多し或は土人の情況を視て
 の心理學の未だ進歩せざることを憂へ内地の景勢を見ての地理學の未だ發達せ
 ざることを嘆き特にお宗教上の有様を察せれば暗黒の地と云ふの外適當せる語な
 きを悲まざるを得ざるなり而して其妨げと云ふの一の時候是あり凡そ東西の
 海岸の時候尤も悪けれ外國人の其地お起る者概ね熱病お罹りて死せり其
 他お沼澤多くありて極めて炎熱なり(二)と旅行の困難是なり内地の幾分か高爽
 なれば時候の左程悪からざれども海岸より内地お入るとい極めて困難あり乃
 ち大河ありても橋梁おく難ありても上ると能はず且つ蠅の如き毒虫多くあり

て牛馬も使役すると能はず又一定の政府なければ通貨もあるとなし若し人内
 地お赴かんとするおの多くの土人を備ふて之を使役すれども右の如く通貨お
 ければ之お代ふるお多くの物品を與ふるを例とす之お依りて衆多の旅費を要
 せざるを得ざるなり(三)の奴隸商賣是あり古より黒人を奴隸として外國に販賣
 する惡しき商賣行のれたりしが今や幸にして歐米各國お奴隸を送るとの全く
 跡を絶ちたりと雖も奴隸商賣の彼の回々敵に適當せる事業なるを以て彼の信
 徒なるアラビヤの商人の今なは内地お入りて人を偷み之を奴隸として大に賣
 ひると屢々なりければ是等の惡しき商賣の爲お苦死する者甚だ多く且つ奴隸
 を奪取らんと欲して屢次戦争を起せしとあり然れば此の戦争の爲お國勢大に
 衰へたる耳ならず此の奸商等の戦争によりて全く人民の斷へたる處さへある
 お至れり之より先き西洋の政府の軍艦を以て奴隸を外國に送るとを廢したれ
 ども今なは内國おて此商賣の決して衰へずアラビヤの商人の内地お入りて象
 牙等を買ひ其物品を海岸お運送するお多くの土人を使役し且つ戦争を起し輒
 すく其土人を取りて奴隸と爲せり嗚呼是等の惡しき商賣を廢するとの決して

容易の事業をあらざるべし。

〔第二〕南アフリカ、此の地方の多くの英國の属地にして英國人および獨逸人多く住せり其他の獨逸人の獨立國もあり又間接に英國の支配に依りて獨立國もあり凡そ此の黒人の中に於て基督教に入りし者十四萬人あり又英國の殖民地より更なる北方に向ふて傳道せしとあり此地方の傳道者中二人の傑傑あり其一人をモハット(紀元一千七百九十五年より全八百八十三年まで)云ふ氏の原植木商ありしが篤き信仰ありて特に外國人の爲に働かんとするの熱心なを起したればバロン(紀元一千七百九十五年より全八百八十三年まで)云ふ歳に至るまで五十年間其所にて働けり又愛心と親切とを盡して土人の爲に働き而して多くの人々をキリストに導けり又氏の常に英國の殖民地より更なる土人の住する地方に出て土人の爲に働きたり漸く老年に及て本國に返りしが本國人と大に其熱心を感じて其働きを稱譽たれども氏の本國人の稱譽よりもアフリカ人の愛心を大切と思へり他の一人をレヒングストン(紀元一千八百十三年より全七十七年まで)と云ふ氏の蘇國の人にして嘗て紡綿製造所の職工人と

爲り常に貧窮の生計を營みたれども有る程の書を讀みて學問を進み後ち醫學を卒業し廿七歳の時バロン傳道會社の傳道者となりて南アフリカに出で其處にてモハットの女を娶り十二三年間其地方に働きたりしが更なる傳道地を擴めんと思ひ先づ妻子を本國に歸し一人にて種々の困難辛苦を忍耐し徧くアフリカ國を探索せり蓋し氏の深く奴隸商賣の流行を憂へこの國に於て正しき商賣の販路を拓かんと思はば此の惡しき商賣を止めしむるの外他は良法あるとなしと思ひたれば夫より正しき商賣の路を拓かんが爲に悉く内地を探索んと欲し直接に傳道を廢して終身國勢を搜索するを以て間接傳道の爲に働きたり又氏の奇特ある親切を以て土人と交はり大に其愛心を得たり其後ち稍疲勞を催ふしたるが爲に暫く旅行を止め内地にて四五人の土人と共に住せし時氏の神を祈禱しつゝ安然として死せり然れば其土人等深く氏の仁恤を感じ何卒して其死骸を本國に歸送んと思ひ種々の妨害あるにも拘りて彼等能く堪へ忍びて氏の死骸を漸く或る海岸に運べり蓋し是時内地より海岸に達するに八月を費せりと云ふ而して其海岸より死骸を英國に送りたれば英國人

ハ氏の愛心ハ感ヒロンドンの大會堂にて葬儀を行へり又氏の働きによりて英國あてもアフリカ人の爲ハ働く熱心を進めり

〔第三〕東方の大湖 東方の海岸ハ従前より餘り傳道せしとあし更ハ夫

より内地ハ入れバ三の大湖あり其南ハあるを「ニアサ湖」と云ふ此地方ハ幾分か海岸より近きを以て蘇國の傳道者ハ此地ハ働き數年間盛んハ傳道したれども是亦た熱病の爲ハ死する者多くある耳あらず近頃奴隸商賣ハ就て起りし戰爭

ハよりて傳道上大なる妨害を爲せり其中央ハあるを「マンガニカ湖」と云ふ長サ一百六十里あり此地方ハ海岸より遠隔の地なれば傳道の都合甚だ宜しからず然れどもロンドン傳道會社の傳道士ハ種々の妨害ハ忍耐して其處ハ働けり其北ハあるもの尤も廣大なるものにして而も英國女皇の名を以て「ウイントリア」と云ふエマフートのナイル河の源あり是亦た海岸より遠隔の地なれば尤も困

難あり英國教會の傳道會社ハ是の大湖の沿岸ハ働けり而して是の大湖の北の沿岸ハ幾分か盛んなるウガンダと云へる國あり其國王ハ初め或る旅人より基督教を聞きて直ちハ其國ハ傳道者を招きたれども後ハ其傳道者の働きを妨

げ又信者を責めたり近頃ハ至りて其傳道者を悉く國內より追出せりと云ふ蓋し想ふハ此の三大湖の地方ハ働ける傳道者ハ悉く疲勞と病氣と且つ種々の障礙ハ忍耐せし眞個の豪傑あれども透一本史ハ記載すると能ハざれば就中一人の事跡のみを記すべし即ち「ハンコントン」紀元一千八百四十七年より全八十四年まで是なり氏の富める商人の子なりしかども其富有を辭してアフリカハ出て専ら熱心と親切とを盡して働きたれども嘗て「ウイントリア」湖に往くの際或る野蠻人の爲ハ殺されたり

〔第四〕西方の海岸 西方の海岸ハ早くより傳道したれども種々の妨害

の爲ハ今なほ左程ハ進歩の効を見ず又この海岸の時候ハ尤も悪しければ熱病ハ罹りて死したる傳道者多し近頃ハ内地に入りて傳道する者もあり或ハ「コンゴ」と云へる大河を逆流て其河畔ハ正しき商賣を爲す商人もあり又傳道者もありたり然れば傳道の機會ハ甚だ多けれども此地方の傳道ハ漸く近頃に至りて着手せしとあれを直ちハ其結果を見ると能ハぞ夫より南方ハ當りてビヘーと云へる地方あり「アメリカンボート」の傳道士ハ此地方ハ働けり

〔第五〕マダガスカル、此の地の亞弗利加より更ま東方とうほうに在る大島にして長徑凡そ四百里ある大嶋中の隨一なり人口凡そ五百萬人あり海岸の時侯甚だ悪しけれども内地の然らず土人の黒人ども異なれり紀元一千八百十八年よりロンドン傳道會社の働きにより十年間國王の好意を受けて盛んさか傳道したれども王の死後その寡婦後を嗣ついでぎて王位に上りたりしが不幸あふして基督教を忌嫌きらひ悉く傳道者を國外に追出し爾來凡そ三十年間大信者を責めたり其甚だしきの特とくに信者を數十丈の斷崖絶壁より墮おして殺せしが如き残酷ある舉動を爲したり然れども此地の信者の傳道者の世話をも受けざるあ長く此の如き迫害に忍耐して信仰を有てる者多し其後ち女王の死せしより傳道者の復た自由を得て現今信者の數の廿五萬人あり

第八項 亞米利加國

〔第一〕北アメリカ、第十八世紀以來丁抹人即ちエメツと云へる傳道者の殆んど北極に近きグリーンランドと云へる國に出で自ら寒氣と貧困に忍耐して貧しき土民の爲に親切を盡して働けり其後ちモーレンピアン派の傳道者も同

地ち來りて供た働けり却かへてその土人の數の僅か一萬人のみなりしが是等の傳道によりて咸く信者と爲れり又カナダ國土人の爲に働く傳道者多くありて後ち四萬人の信者出來たり

〔第二〕米國、米國の土人の今より凡そ三百年前せんねんの七十萬の人口ありたれども漸く減少して現今僅か六十六萬人のみ存せり而して米國の教會より傳道者出てその土人の爲に働けり其土人中の半數の未だ野蠻人たれども他の半數の漸く開化國の風習ふうじゆうに從したがへり就中信者と爲りし者凡そ九萬人あり又米國南部の黒人の凡そ六百五十萬人ありて咸く基督教信者たるの名あれども基督教の精神と其道徳との未だ曉らざる者甚多し然れば教會の衆多あれどもその牧師たる者の咸く無學の小民せうじんかれは聖書の意味を解せず又その會員の中なかに常とこに品行の流行りゆうじやうを有るは是故に北部の教會より傳道者を送りて更さらに教會を立て教師きやうしの教育を施し基督教の眞正の精神を教ふる爲に働かしめたり

〔第三〕西印度諸島、南北亞米利加の中央ちゆうちゆうの大小の群嶋あり更に印度いन्दの關係せしとなけれども此群嶋を西印度と云へり此群嶋の人民の多く黒人こくじんありて

凡そ四百五十萬人あり「モーレヒアン」派の最初の傳道者ハ此嶋而來り富有者の嘲けりをも厭はずして殊さら賤しき奴隸の爲み力を盡して働けり然して其傳道の益々盛んおして已み前に述べし如く本年より此嶋の傳道の獨立教會と爲れり又紀元一千七百八十六年お彼のウエスリーの徒が米國お航海するの途上計らずも大風お遇ふて此嶋お着し奴隸を憐むの情を起し英國お歸りて其奴隸の現情を述べ速かお傳道者を此地お送るべきことを屬せり又「メソヂスト」派の傳道およりて黑人中多くの信者出來たり其他の傳道會社も共お此嶋お働けり而して其信者の總數ハ凡そ四十萬人あり此人々ハ元來奴隸なりしが數十年前お自由を得たれども今は無學の人民なりしなり、

〔第四〕南アメリカ、此地ハ長き間西班牙葡萄牙の屬領と爲りたれば羅馬教の諸方お行ハれたり之お依りて基督教の儀式を守る者多くあれども基督教の精神を曉れる者ハ恐く稀なり其他尤も南おある地方お於てハ未だ全く基督教を受けざる土人あり彼等ハ極めて貧困おれば一定の住宅なく實ハ野蠻中の野蠻人なれば是の如き人民お傳道するこの極めて難かるべし却てその地方お

働さし一傑傑ガイデナル紀元一千七百九十四年より全八百五十一年までの事跡を述べれば彼の初め或る軍艦の指令官と爲りて戦争お出で大に名譽を得たれども幾分か道より迷ふて不品行の罪お陥りたることありしが後母の死期ハ履歴すおち母が篤き信仰と喜悅とを懷て永眠お就きしとを讀みて密かお聖書を購求め爾來頻りお聖書を讀み後ち其職を辭して先づ南アメリカお出で四五年の間その土人お道を傳へたりしが其後ち戦争の起りしを以て止むを得ず傳道の業を廢めたれども猶ほ極めて下賤者極めて可憐者お道を傳へんと欲して南アメリカお航り彼の南極お近き地方の土人おキリストの恩恵を宣傳へんとするの熱心を起し五六人の友達を伴おひて其地お到りしかども未だ充分の傳道お着手せざる時早や其食物の全く竭きたるを以て咸く死したり而して彼等が死亡せしより後ち漸く其地方お軍艦到着したれば其死屍を審査して彼等が死するまでお記したる日記を得たり其日記お彼等が忍耐と信仰の有様を記したるを以て之を出版し本國おて大お傳道の心を起さしめたり、

第九項 太平洋諸島

太平洋の大小の群島ありて亞細亞に近き大島あり未だ傳道も盛んも行われざれども太平洋の小さな島々には忍耐と信仰とを以て大なる勝利を奏したる處あり皆な同一の嶋々なれども地方によりて人の性質も大に異に國語も亦た多し其東方に在るをポリネシア(大嶋)と云ひ北方の尤も日本に近きものをミクロネシア(小嶋)と云ひ南方埃太利亞に近きものをメルネシア(黒嶋)と云ふ

〔第一〕布哇島、太平洋の嶋の多くの赤道より南に在れども布哇嶋の北に在りて米國と日本との中央に在り此嶋の傳道は今より凡そ八十年前に在り乃ち或る日米國エール大學校の生徒が其校外の最も近き處に外國の童子が頻りに涙を流して愁傷せる者あるを見れば直ちに到りて之を尋ねたる其童子の布哇嶋の者なりしが嘗て商船に搭じて此の港に來りし折柄始めて是の如き立派なる大學の講堂を見て己れの無學なることを曉り又本國は是の如き學事を見て悲み堪へざるありと云ひければ其生徒等は是の童子の事を感じ夫より有志の者相連合して特別の學校を設け是の如き數人の子弟を教育すること爲りたれども彼の童子の不幸にして其學校を卒業せずして遂に病死したり然れ

ども其友人の中より卒業の後ち本國に歸りて道の爲に働く者四五人もありたり是よりして米國にても布哇嶋に傳道するの精神起り紀元一千八百廿年「アメリカンボード」より二人の傳道者此嶋に來りて専ら傳道に従事せり幸ひ其傳道者の未だ此嶋に到着せざる先ちて嶋主の悉く偶像を廢したり斯く速かに偶像教を廢したれども眞の宗教の毫も解せざれば兩來道德上の有様の大に腐敗せりと云ふべし然れども「アメリカンボード」の傳道者の盡力によりて廿年間の大なる結果を奏したり乃ち「ユアン」と云へる傳道者の紀元一千八百卅八年七月第一の日曜日を以て自ら一千七百人の洗禮を施せり又二年の間「ユアン」の教會に入りし者六千七百人に至れり又「ユアン」の此嶋に滞在在中一人にて一萬二千人の洗禮を施せりと云ふ然れば此嶋人の悉く基督教を受入れたるを以て紀元一千八百六十九年傳道會社の全く此嶋の傳道を止めたり夫より以降此嶋人の自ら本國に盛ん基督教を弘むのみならず外國傳道會社を設立し西方の小嶋に傳道者を送りて之が爲に働けり此嶋に於て斯く喜ぶべく賀すべきとあれども又更なる悲嘆すべきとも之れあるべし乃ち人口の減少せると

是なり初め傳道士の此地を來りし時、人の人口凡そ十四萬人ありしかども、今の僅か、四萬五千人あるのみ、又、嶋人の全く基督教を受けたれども、其人々の實に小兒らしき弱き者ありして、外國人と交際するが爲、或の試みを負けて、不品行に陥る者もあらん、又、近頃、癩病流行の爲、數百人の患者もあり、又、人口の減少せしが爲、支那及び日本より數千人を備ふて、田野を耕作せしめられたれば、此人々の爲、傳道する者もあり、幸ひして、此人々の中、幾許の教會出來たり。

〔第二〕ソサイデ嶋、此嶋のポリニシヤの東方ありて、尤も大なる嶋を、ヒデ嶋と云ふ、此地方の早くより、ロンドン傳道會社の働きより、信者多く出來たり、其傳道者中、尤も著名なるハ、ウイリヤムス、紀元一千七百九十六年より全八百卅九年まで、なり、氏の少年の時、鍛冶屋の丁稚と爲りて、日々、の業を爲すに尤も敏捷、伶俐ありしが、後、信者と爲り、廿歳の時、モハットと共に傳道會社より撰ばれて、始めて、太平洋海に出で、廿二年の間、其嶋人の爲、親切と全力を盡して働き、大、人の愛心を受けて、衆多の人をキリストに導けり、斯く、氏の利巧あるが爲に、大に、土人の稱譽を得て、基督教を傳ふることを、大切に思ひしかども、其他、正し

き働きを以て、文化をも併せて、教へたり、又一地方のみ、滞在せずして、偏く諸方を巡り、多くの嶋人に、基督教を傳へたり、夫のみならず、英國の或る有志者の世話をより、傳道船を購求め、其船に乗じて、諸嶋を巡り、尤も働きを爲したれども、後、或る野蠻人の嶋を、着して、遂に殺されたり、此の諸嶋の中、凡そ半部の佛國に屬したれば、羅馬教の干渉より、傳道上大なる妨げ起れり、然れども、佛國新教の傳道者、其地を働けり、自餘の半部の獨立せり、而して、此の地方新教の信者の凡そ二萬人餘あり、又、全く基督教を受入れたる嶋もありたり。

〔第三〕サモア島、此嶋の右の嶋より、少しく西方に在り、此嶋も、ウイリヤムスの傳道より、又、ロンドン傳道會社、米國メソヂスト、傳道會社の働きより、信者凡そ四萬人餘り出來たり。

〔第四〕フンシ嶋、此嶋の右の嶋より、復少しく西方に在りて、凡そ一百四十個の群嶋より、成立つ嶋なり、人口の廿五萬人あり、而して、此嶋人の元來、非常の野蠻なるものありて、若し何人あても、其夫死する時、必ず、其寡婦を殺し、又、老たる親等を殺し、又、赤子を殺し、又、人を殺して、人肉を喰ふ風習の尤も盛ん、流行した

れバ或る高位の者の中九百人の人肉を喰ひし者ありと云ふ斯く人肉を喰ふ
との諸方ハ流行する風習なりしが茲ハ紀元一千八百卅五年に英國「メソヂスト」
派の傳道者の始めて此嶋ハ來り種々の艱難辛苦ハ忍耐してキリストの恩惠を
宣傳へしを以て漸く是の如き人民も其野蠻の風習を脱してキリストハ從ふハ
至れり然レバ現今此の嶋人も基督教の道徳ハ循ふて己れの牧師を自給せり其
傳道者の中尤も著名なるハ「ホンテ」なり氏の紀元一千八百十二年ハ生れて原
農夫なりしが自ら學問ハ進み且つ熱心ありて後ち大學ハ入り卒業の後ち傳道
者ト爲りて此嶋ハ出で親切を以てキリストの道ハ宣傳へ十年の間働きて遂ハ
死したり氏の働きの尤も大なる結果を現せり而して此嶋ハ現今英國の屬領ト
爲りたり是蓋し土人の請求ハ應じたる者あり

〔第五〕メルニシヤ嶋、フカワー嶋より更ハ右ハ廻レバ乃チメルニシヤ嶋
ハ到るべし此嶋も亦ハ大小の群嶋を合せたるものありさて此嶋ハ「ロンドン」
傳道會社「カナダ」長老會及ハ英國教會の傳道士も供ハ働けり未ダ野蠻ハして全
く基督教を受けざる地方もあり又基督教の盛んハ行ハる、地方もあり此傳道

士中著名の人のケ「テ」なり氏の「カナダ」の人にて教會の牧師ト爲り其後ち外國
傳道の熱心を起し諸方の教會を巡りて傳道の精神を鼓舞し又傳道會社を起せ
り是時氏の其依頼を受けて紀元一千八百四十八年ハ此嶋ハ來り廿四年の間す
まハち死するまで此一嶋に働けりさて氏が此嶋ハ來りし時土人の皆ハ野蠻ナ
リしが氏が未ダ死せざる前ハ土人の皆ハ基督教を受入る、に至れり是蓋しケ
「テ」夫婦の熱心ある働きの結果ト云ハざるべからず而して此の群嶋ハ各々方
語の異なるガ爲ハ一人の傳道士ハ此の如き群嶋ハ道を宣傳ふると能ハざれ
も種々の働きハよりて遂ハ此嶋にも基督教を傳ふるハ至れり右の外更ハ「ロ
ン」傳道會社の働きハよりて一萬人の信者出來たり又長老會の働きハよりて
三千人の信者出來たり英國の傳道士中屈指の人の「バテソン」なり氏の英國判事
の子ハして大學を卒業して後ち其大學の教師ト爲りたれども廿七歳の時サ
ハ「紀元一千八百五十四年」ハ太平洋海ハ出で十七年間死するまで一回も本國ハ
歸らずして此の野蠻人の爲ハ働けり特ハ子女の教育ハ傳道の好機會ありと思
ハ自ら傳道船を造りて毎年未ダ開けざる嶋々を巡り或ハ四五人の少年を伴ハ

ひ來りて幾分か開化せる嶋も立ちし學校も入れ半年間其學校にて教育の爲め自ら働きたる少年を故の如く傳道船に乗せて本嶋に歸送したり氏此の如く大い少年を愛して與に住居し種々の親切を盡して其少年をキリストに導けり然れば此の少年の半年間の學校も止まり又半年間の家も返り其學校にて學びしを親屬朋友に報け知らせて相偕に喜べり氏更に未開の嶋に到りて野蠻人を導かんを欲したりしが惜哉の親切の彼等も貫徹せざるが爲に遂に彼の手に係りて殺されたり又同嶋の東方にニューゲキと云ふ大嶋あり此の土人の極めて野蠻猛惡なれば傳道に極めて難し之より傳道者の殺されし者幾許もあり而して此嶋の現今和蘭に屬する處あり又獨逸英吉利に屬する處もあり近頃和蘭の傳道會社の此嶋に傳道せしが結果に何れの時なるか未だ預期すべからず。

〔第六〕ミクロニシヤ嶋、此嶋の右の黒嶋より北方に在りて日本より左程遠からず此嶋も亦た極めて小嶋の相集りたるものにして左のみ大なるものあらざるあり其中の山あるものもあり平坦なるものもあり其山ある嶋も

の草木もあり循環もありて尤も美しき景色を有すれども其平坦なるもの草木なく長水もあるとなければ是の如き處に住するの實に困難なるとあり至島の人口の凡そ九萬人ありと云ふ布哇嶋の教會に米國「アメリカンボード」と共に此嶋に働けり又米國の日曜學校生徒の寄附金を以て「曙の明星」と云へる傳道船を造り毎年布哇嶋より出で此嶋に傳道せり其傳道者中キヨリキと云へる人あり長く此嶋に働きて現今は支那に傳道せり他の一人を「オソン」と云ふ氏と二年間京都の同志社學院にて働きたる其前後この嶋に働けり而して此地方教會員の數の五千あり。

第十項 統計表

第十九世紀の傳道歴史を閲見するに傳道上の障礙の甚だしきを感せざるを得ず凡そ外國に傳道する者の各國みな言語を異なすれば各國の言語を學ばざるべからず未開の國々に「いろは」もあらず字典もなければ其傳道士「いろは」を造り又字典をも作らざるべからず又政府の長く基督教の傳道を禁する處あれば近頃に至るまで自由な傳道する處も甚だ稀なると且つ野蠻人の戰爭よりて

屬々傳道者の勞力の減びし處あり今亦はアフリカにての奴隸商賣の爲の時々
戰爭を起し大に傳道上の妨害を爲せり又惡しき商人またの水夫等が野蠻人と
交るを以て淫亂の結果なる病氣の流行するとあり是の野蠻人を導くといふ
も困難ある事業と云ふべし然れども往々果を結ぶとも全く之れなきも非ず今聊か
其結果を算ふるに信者の數の凡そ二百卅萬人餘りあり其中に亞米利加之土人
の六十八萬餘人太平洋諸嶋に廿萬人亞細亞の諸國に七十八萬人亞弗利加マ
カスガルに五十八萬人あり又傳道者の立てし學校の生徒凡そ五十萬人あり又
傳道者の聖書を二百七十個の國語に譯せり其中に「いろは」さへあき國八十個あ
りたり

又全世界宗教上の情況を約言せんとするは是の固より詳細を知るべからざる
とかれども或人の統計表に據れば即ち左の如し(一)歐羅巴洲に三億萬人あり其
中お猶太教徒五百五十萬人回々教徒六百萬人羅馬教徒一億五千萬人新教徒七
千五百萬人希臘教徒七千二百萬人あり(二)亞細亞洲にては八億三千萬人あり其

中お猶太教徒一百萬人回々教徒一億一千三百萬人異教徒七億萬人基督教徒一
千二百萬人あり(三)亞弗利加洲に二億萬人あり就中猶太教徒一百萬人回々教徒
五千萬人異教徒一億四千五百萬人基督教徒三百五十萬人あり(四)亞米利加洲に
八千五百萬人あり其中お異教徒九百五十萬人あり自餘の咸く基督教徒なり
(羅馬教徒半數新教徒半數)(五)太平洋の諸嶋の總計四百七十萬人あり其中お異
教徒二百七十萬人基督教徒二百萬人あり(此數の中お其地方に住する英國人
多く含めり)

第七章 内國の働き

(第一)日曜日學校、古より基督教信者の子女に聖書を教授せしとありしが
日曜日學校の起原は今より凡そ一百年前の事ありしあり乃ち是の如き學
校を創設せし者の英國の新聞記者ソーックスあり氏の紀元一千七百八十年を以
て創めて是の日曜日學校を設けたりと云ふ然れどもソーックスの設けし學校の
現今の日曜日學校との少しく異なるものあり乃ち唯だ貧しき兒童の爲に設け
たるものあり然れば氏の斯く貧兒の憐むべき情態を見て之を默過するも忍び

す選ふ他人を備ふて此の如き貧兒を讀本を教へ又の基督教の問答を教授せしめたり夫より數年を出でざるに氏の撰範を倣ひ英米國に於ても日曜日學校の教師に給料を與へて貧しき兒童を道に教ふる日曜日學校を多く設くるに至れり夫より有志者の給料を受けずして其教師と爲る有様となり又特米國にて貧人の爲のみならず其教會員の兒童を日曜日學校に集めて聖書を教授するの風盛んお起るに至れり今や全世界の日曜日學校の甚だ多く生徒の員數凡そ一千六百五十萬人あり勿論新教の信者のみ而して其中の半數は米國に在り又新教流行の諸國および羅馬教の教會も此の撰範を倣ふて日曜日學校を設くるに至れり今より十七年前米國にて日曜日學校の大會を開きたり其大會の依頼を應じて集まりたる委員の毎年凡ての日曜日學校に於て研究すべき聖書の箇處を定められ兩來何處の生徒も日曜日ごとく聖書中同一の箇處を研究すると爲れり

〔第二〕奴隸商賣を廢する事、古代より敵人を生擒おして之を奴隸とするもの大に諸邦に流行せし風習なりしが其風習の漸く一變して彼の亞米利加

を發見せしより以降不幸おして亞弗利加の黑人を奴隸とするの風習起り特熱帶の地方にて其地主たる者が黑人を使役するを以て巨多の金を儲けしを以て此の奴隸を賣買するの惡商も次第お盛んなるに至り兩來基督教信者と雖も長き間此の惡しき商賣に感ずる者ありしに漸く第十八世紀の終頃に至り此事の甚だ非理なることを感じ更此の商賣を廢せんが爲め働く者出で來れり又且つ篤信の信者の働きおよりて紀元一千八百七年に英國の議會の奴隸商賣すなはち亞弗利加より奴隸を運送することを禁じたれ其翌年米國も亦た此事を禁じたり又同世紀卅三年お同じ信者の勸告およりて英國議會の本國の支配下に在る各地方特西印度の諸嶋に在る奴隸悉く自由を與へたり而るに米國人の發明およりて木綿を製造するの頗る南部地方に流行し此職工場に黑人を使役するの尤も便益あるを以て南部亞米利加にては益々奴隸を使役すべしとの説専ら流行するに至りたれども北部の信者の大お返し奴隸を使役するとの基督教の精神お適ひざることを感じたり然るに南部にては長く此の奴隸を使役するの風習を固守せんと欲せんが爲め遂に謀反を起して南北

の戦争を起すに至りたれども意外にも其戦争の結果一般の奴隷を自由を施すに至りしなり近頃に至るまで南部亞米利加のブラセル國あての依然として奴隷を使役したれども此頃政府の其奴隷を自由を與ふるに至れり

〔第三〕禁酒の事、太古の時代より萬國一般に酒を類似したる物を醸造の

風習あり又キリストの時代よりユダヤ人も異邦人も葡萄酒あるものを飲みたり而してユダヤ人の酒精の稍少なき葡萄酒の水を和して飲みたれば全く酒を酔ふとなしとの斷言すべからざるも先づ少かりしなり近年に至りては萬國共にお葡萄酒を造る耳あらず酒精の最も多量を含める酒類を醸造して販賣するに至れり然れば第十九世紀に至るまで酒は酒を酔ふとの非を知らざる者ありと雖も其酒を全く禁すべしとの説の何處に於ても未だ曾て起らざりしなり然るに紀元一千八百廿年頃米國にて酒の害を感じ始めて禁酒會なるものを設けしとあり爾來今日に至るまで米國を首めとして英國あても種々の會社を設けて飲酒の風習を止め或は法律を設けて酒類を販賣することを禁するに至れり

附言

凡そ本史の最初より第十九世紀の半頃に至るまで一千八百餘年間の教會歴史を記載せしが其終りあ臨んで更前段の要件を反覆せば乃ち三段を區別することを得べし

〔第一段〕の一三三四時代即ち紀元六百年までとす此の時代は東西の分離も亦く基督教の疑々として専らローマ帝國內に流行するの時運ありしなり更之を細別せば第一時代のキリストの生涯記第二時代の使徒等の傳道の時代第三時代と迫害の時代第四時代の基督教が盛んなるローマ帝國內に行はるゝ時代なりし此の六百年間の歴史を調ふる時の基督信者の全く信仰と忍耐とを以て大なる勝利を奏せしものあり又異端に反對し正道を論ずるを以て教會の教義の漸く定まり來れども之と共に争論よりて教會より分離する宗派もありたり又此の時代に至りて僧侶の權力の益々廣く苦行を重んずるの過失も益々盛んに行はれたり然れば此の六百年間の史上を回想すれば實に慨ふべきと多々之れありと雖も亦た悲しむべきとも慟からざるあり

〔第二段〕の五六七八時代即ち中世教會の東西を分離して基督教の重なるローマ帝

國外の流行せし時代あり蓋し教會が東西を分離せしこの第十一世紀に至りて始めて確定したれども恐らく第七世紀以來東西を分裂して其交際も甚だ少かりしなり其中に就て先づ東方教會の状況を畧言せば凡そ此の九百年間の回々教會の流行せしを以て大に亞細亞埃及に於て損失せし處ありと雖も歐洲に於ては魯西亞國を得たり又此の教會の國帝の壓制を免はて多くの獨立を失ひ九百年間の歴史上一事の進歩せしとなく又古より傳はりし信仰條を確守し儀式を大切守りたれども活る精神の大減少せり是故に東方に於て有名の神學者の僅か三三人輩出せしのみ然るに西方の教會も回々教徒を負けて大に亞弗利加に於て損失を招きたれども却て歐洲各國に於て其版圖を擴充せり乃ち近世最も文化を進みし獨佛英に於て大なる勝利を奏したり而して此の九百年の間は羅馬法皇の權力の益々熾昌にして諸王の王諸君の君と爲れり然れども其晩年に臨んで肉體上の權力の大衰へたれども靈魂上の權力を以て教會を束縛するに至りしとの實を止むを得ざるの勢ひと云ふべし又此の時代は神學も盛んに行われ有名の學者も多く出でた

り然れども中世の學問の近世の學問と異なりて其區域の尤も狹少なる耳ならず皆な教會の束縛の下に在りしあり
 (第三段)の第九より十二の時代まで此の時代に至り基督教の三種を分裂しての羅馬教、希臘教、新教と爲れり而して基督教の米國も亞細亞洲の東方支那日本及び全世界の種に至るまで行はるゝに至れり其中に就て希臘教の更に前の時代と異なる所なく左のみ活る精神なき耳ならず前々コンスタンチノープルの國帝の壓制下に在りし如く此の時代は多くの魯帝の壓制下に在り又此の教會は日本を除くの外他國を傳道せしとなく次に羅馬教のルテルの改革以來僧侶の惡風の幾分か改まり又新教の反對して大會議を起し確く信仰簡條を定めたり又法皇の肉體上の權力を失ひしも靈魂上の權力を以て誤りなく教義を教ふるの權力を全ふせり又第十六世紀以來外國傳道の熱心を起し其方法の幾分か過つ所ありと雖も亦た稱すべき熱心を以て諸國の道を弘めり又新教の不幸にして早くよりルテル教會改革教會英國教會の三種を分裂し其後ち又多くの宗派相起りたるが爲に幾分か耻辱を得て

勢力を失ひたるをわれども此の教會の多くの自由と活る精神とを守れり又
 傳道の熱心の早く起らざりしも其後漸く起りて最も遠國の傳道せり又不
 信仰の起りしとわれども信者の信仰と熱心との常々盛んなりしなり
 凡そ右に記せる羅馬教、希臘教、新教、於て信する所の教義の(一)三位一体の
 神の萬物を造り常に其萬物を主宰し給ふと(二)聖書の神の默示なると(三)人間の
 咸く罪人にて唯だキリストの贖みよりて救を得ると(四)人間の來世の(五)信者
 の正義を以て信仰を現はすべきと(六)牧師の職務の必要なること洗禮の必要なる
 こと及び聖靈を受くべきと等なり
 又新教を除て羅馬教と希臘教とを於て與へ信する所の箇條の教會の聖傳を受
 入る、と聖マリア古の聖者及び其畫像と遺物を敬ふと七の大禮のと洗禮を受
 けざる者は救はれざると化體のと僧侶と祭司と祭司とて生る信者又死せし者代り
 て聖體を祝ふと死せし信者の爲に祈りすると等あり其他化體雪罪所の事成就
 て希臘教に於ての一定の説きしと雖も其實の羅馬教と異らざるあり
 又羅馬教と希臘教と異なる所の聖靈の父より出づる耳ならず子より出づると

信せると羅馬法皇の諸教會を支配する權あると聖マリアの無罪出生(マリアを
 敬ふと)於て希臘教も敢て羅馬教に劣らずのと一般僧侶の婚姻を禁ずると晩
 餐禮の時一般の信者葡萄酒を與へざると等なり其他教會の儀式を行ふ小種
 々の別あり其中希臘教の浸禮を行ひ羅馬教の水滴を注ぐを例とす是乃ち儀
 式上の尤も大なるものあり

基督教會歴史終

CHURCH HISTORY

BY

D. W. LEARNED AND T. HAYAMI,
1889.

CONTENTS.

STATE OF THE WORLD AT THE BIRTH OF CHRIST.

SECT. 1.—THE ROMAN EMPIRE.

1. Its rise.
2. Its condition.
3. Its advantage for the spread of the Gospel.
4. Prevailing languages.
5. Chief cities.

SECT. 2.—STATE OF MORALS.

1. Decline of morals.
2. Licentiousness.
3. Slavery.
4. Cruelty.

SECT. 3.—GENTILE RELIGION AND PHILOSOPHY.

1. Greek and Roman religion.
2. Unbelief and superstition.
3. Philosophy.
4. Gentile worshippers of Jehovah.

SECT. 4.—POLITICAL CONDITION OF PALESTINE.

1. Babylonish captivity.
2. Syrian tyranny.
3. Subjection to Rome.
4. Herod.
5. Jewish hatred to Rome.
6. Language of the Jews.

版權登錄

SECT. 5.—RELIGIOUS CONDITION OF THE JEWS.

1. Pharisees.
2. Sadducees.
3. Essenes.
4. Hatred to idolatry.
5. Expectation of the Messiah.
6. Jewish learning.
7. Synagogues.

SECT. 6.—JEWISH DISPERSION.

SECT. 7.—SAMARITANS.

PERIOD I.

LIFE OF CHRIST. B.C. 4—A.D. 30.

SECT. 1.—GENERAL HISTORY.

1. Emperors.
2. Government of Judea.
3. Government of Galilee.

SECT. 2.—JOHN THE BAPTIST.

SECT. 3.—DATES OF CHRIST'S LIFE.

SECT. 4.—BEGINNING OF HIS WORK.

SECT. 5.—FIRST YEAR'S WORK.

SECT. 6.—SECOND YEAR'S WORK.

SECT. 7.—THIRD YEAR'S WORK.

SECT. 8.—OPPOSITION TO JESUS.

SECT. 9.—HIS DEATH.

SECT. 10.—HIS RESURRECTION.

SECT. 11.—STATE OF CHRISTIANITY AT CHRIST'S DEATH.

PERIOD II.

APOSTOLIC AGE. A. D. 30—100.

SECT. 1.—GENERAL HISTORY.

1. Emperors.
2. Jews.

SECT. 2.—TILL PAUL'S FIRST MISSIONARY JOURNEY.

1. Birthday of the church.
2. Customs of the first church.
3. Beginning of persecution.
4. Stephen.
5. Preaching in Samaria.
6. Baptism of Cornelius.
7. First Gentile church.
8. Third persecution.

SECT. 3.—LIFE AND WRITINGS OF PAUL.

1. Early life.
2. Conversion.
3. Work in Cilicia and Antioch.
4. First missionary journey.
5. Dispute about circumcision.
6. Meeting at Jerusalem, A.D. 50.
7. Second journey.
8. Epistles of the second journey.
9. Third journey.
10. Epistles of the third journey.
11. Imprisonment, A.D. 58—61.
12. Paul in Rome.
13. Release.
14. Death.
15. Epistle to the Hebrews.

SECT. 4.—PETER.

1. Work and epistles.
2. Romanist traditions.

SECT. 5.—JOHN.

1. Life.
2. Work.
3. Writings.

SECT. 6.—OTHER APOSTLES.

1. The Twelve.
2. James, the Lord's brother.
3. Jude,

SECT. 7.—THE GOSPELS.

1. Time of writing the first three.
2. Matthew.
3. Mark.
4. Luke.
5. John.

SECT. 8.—PERSECUTIONS.

1. Jewish opposition.
2. Gentile persecution.
3. Nero.
4. Domitian.

SECT. 9.—CHURCH GOVERNMENT.

1. Apostles.
2. Evangelists.
3. Churches.
4. Bishop-elders.
5. Deacons and deaconesses.
6. Self-government of churches.
7. Discipline.
8. Councils.

SECT. 10.—WORSHIP.

1. Sunday.
2. Church worship.
3. Baptism.
4. Infant baptism.
5. Spiritual gifts ; laying on of hands.
6. Prophecy.
7. Gift of tongues.
8. Lord's supper and love feast.

SECT. 11.—HERESIES AND ERRORS.

1. Judaizers.
2. Antinomians.
3. Heresy at Colossae.
4. Disorders at Corinth.
5. Errors opposed by Paul in I. Timothy.
6. Errors opposed in the Revelation.

SECT. 12.—APOSTOLIC TEACHING.

1. Christ.
2. The atonement.
3. Salvation by faith.
4. Divine grace and human responsibility.
5. Practical teaching.
6. Eschatology.

SECT. 13.—STATE OF THE CHURCH, A.D. 100.

PERIOD III.

AGE OF PERSECUTIONS. A. D. 100-311.

CHAPTER I.—EXTERNAL HISTORY.

SECT. 1.—GENERAL HISTORY.

1. Emperors of the second century.
2. Emperors of the third century.
3. Jews.

SECT. 2.—SPREAD OF CHRISTIANITY.

1. Manner of the spread of the Gospel.
2. Christianity in the several countries.

SECT. 3.—PERSECUTIONS.

1. Causes of persecution.
2. Trajan.
3. Marcus Aurelius.
4. Severus.
5. Decius.
6. Last persecution.
7. Martyrs.
8. Apostates.

SECT. 4.—WRITINGS AGAINST CHRISTIANITY.

1. Tacitus.
2. Celsus.
3. Lucian.
4. Neo-Platonism.
5. Arguments against Christianity.
6. Arguments in its defence.

CHAPTER II.—DOCTRINE.

SECT. 1.—JEWISH HERESIES.

SECT. 2.—GNOSTICISM.

1. General description.
2. Four chief doctrines.
3. Leading teachers.

SECT. 3.—MANICHEISM.

1. Origin.
2. Doctrines.
3. Government and worship.

SECT. 4.—ANTI-TRINITARIAN HERESIES.

1. Unitarianism.
2. Patripassianism and Sabellianism.

SECT. 5.—MONTANISM.

1. Origin.
2. Doctrines.

SECT. 6.—CHRISTIAN TEACHING.

1. Catechists.
2. Creeds.
3. Doctrine about Christ.
4. About man.
5. About baptism.
6. About the Lord's supper.
7. About the church.
8. About the atonement.
9. About eschatology.

CHAPTER III.—CHRISTIAN LIFE.

SECT. 1.—CHRISTIAN MORALS.

1. Reforming power of Christianity.
2. Fraternal love.
3. Women and marriage.
4. Heathen amusements.
5. Slavery.

SECT. 2.—WORSHIP.

1. Sunday.
2. Meeting places.
3. Worship.
4. The Lord's supper.
5. Baptism.
6. Infant baptism.
7. Confirmation.
8. Easter.
9. Other festivals.

SECT. 3.—BURIAL.

SECT. 4.—ASCETICISM.

CHAPTER IV.—CHURCH GOVERNMENT.

1. Distinction of bishops and elders.
2. Archbishops.
3. Influence of the Roman church.
4. Increase of number of orders of clergy.
5. Sacerdotalism.
6. Discipline.
7. Celibacy of clergy.
8. Councils.

CHAPTER V.—LITERATURE.

SECT. 1.—EARLY WRITINGS.

1. Epistle of Clement of Rome.
2. Teaching of the Twelve Apostles.
3. Shepherd of Hermas.
4. Epistle of Barnabas.

SECT. 2.—IGNATIUS.

1. Life.
2. Letters.

SECT. 3.—POLYCARP.

1. Life.
2. Letters.

SECT. 4.—JUSTIN.

1. Life.
2. Writings.
3. Tatian.

SECT. 5.—IRENAEUS.

1. Life.
2. Writings.

SECT. 6.—CLEMENT OF ALEXANDRIA.

1. The Alexandrian School.
2. Life of Clement.
3. Writings.

SECT. 7.—ORIGEN.

1. Youth.
2. Work as teacher.
3. Excommunication.
4. Remainder of life.
5. Writings.
6. Gregory Thaumaturgus.
7. Dionysius.

SECT. 8.—TERTULLIAN.

1. Life.
2. Writings.

SECT. 9.—CYPRIAN.

CHAPTER VI.—STATE OF THE CHURCH AT THE END OF THIS PERIOD.

PERIOD IV.

ALLIANCE OF CHURCH AND EMPIRE. A. D. 311-600.

CHAPTER I.—EXTERNAL HISTORY.

SECT. 1.—GENERAL HISTORY.

1. Constantine.
2. Division and decay of empire.
3. Barbarian invasions.
4. Justinian.

SECT. 2.—SPREAD OF THE CHURCH WITHIN THE EMPIRE.

1. Constantine.
2. Sons of Constantine.
3. Julian.
4. After the death of Julian.
5. Theodosius and the end of paganism.

SECT. 3.—CONVERSION OF BARBARIANS.

1. Work of Ulphilas.
2. The Vandals.
3. The Franks.

SECT. 4.—SPREAD OF THE CHURCH WITHOUT THE EMPIRE.

1. Persia and India.
2. Armenia.
3. Ireland.

SECT. 5.—RELATIONS OF CHURCH AND STATE.

1. Privileges of the clergy.
2. Powers of the bishops.
3. Laws of the empire.
4. Interference of the government in the church.
5. Effect of the favor of the government.

CHAPTER II.—DOCTRINES.

SECT. 1.—ARIANISM.

1. Doctrines of Arius.
2. Beginning of controversy.
3. Council of Nicaea.
4. Fifty years' controversy.
5. Council of Constantinople.
6. End of Arianism.

SECT. 2.—APOLLINARIANISM.

SECT. 3.—NESTORIANISM.

1. Nestorius's teaching.
2. Cyril's opposition.
3. Council of Ephesus.
4. History of the Nestorians.

SECT. 4.—MONOPHYSITE CONTROVERSY.

1. Teaching of Eutyches.
2. Robbers' synod.
3. Council of Chalcedon.
4. Monophysite sects.
5. Fifth general council.

SECT. 5.—PELAGIANISM.

1. Pelagius's teaching.
2. Augustine's opposition.
3. Discussion.
4. Decision of council of Ephesus.
5. Eastern and Western views.

CHAPTER III.—CHURCH GOVERNMENT.

SECT. 1.—THE CLERGY.

1. Exaltation of the clergy.
2. Celibacy of the clergy.
3. Clerical education.
4. Election of the clergy.
5. Ranks of the clergy.
6. Country bishops.
7. Archbishops.
8. Patriarchs.
9. Bishop of Rome.

SECT. 2.—COUNCILS.

CHAPTER IV.—CHRISTIAN LIFE.

SECT. 1.—WORSHIP.

1. Formalism.
2. Church buildings.
3. Pictures and images.
4. Worship of Mary and the saints.
5. Sunday.
6. Festivals.
7. Christmas.
8. Epiphany.
9. Easter.
10. Pilgrimages.

SECT. 2.—MONASTICISM.

1. Origin.
2. Antony.
3. Cloister life.
4. Simeon Stylites.
5. Monasticism in the West; Gregory of Tours.
6. Benedict.
7. Benedict's rules.

CHAPTER V.—HEROES OF THE CHURCH.

SECT. 1.—ATHANASIUS.

1. Youth.
2. Opposition to Arianism.
3. Bishop of Alexandria.
4. Accusations of his enemies.
5. Five exiles.

["Athanasian" creed.]

SECT. 2.—EUSEBIUS.

1. Life.
2. Writings.

SECT. 3.—BASIL.

1. Youth.
2. Life as monk.
3. Work as bishop.

SECT. 4.—GREGORY OF NYSSA.

1. Life.
2. Pilgrimage to Palestine.
3. Writings.

SECT. 5.—GREGORY OF NAZIANZUS.

1. Youth.
2. Ordination.
3. Work at Constantinople.

SECT. 6.—JOHN CHRYSOSTOM.

1. Youth.
2. Monastic life.
3. Work in Antioch.
4. Work at Constantinople.
5. Malice of his enemies.
6. Exile and death.
7. Writings.

SECT. 7.—CYRIL.

1. Life.
2. Death of Hypatia.

SECT. 8.—AMBROSE.

1. Early life.
2. Work as bishop.
3. Reproof of Theodosius.

SECT. 9.—JEROME.

1. Life.
2. Translation of the Bible.

SECT. 10.—AUGUSTINE.

1. Early life.
2. Conversion.
3. Work at Hippo.
4. Theology.
5. Writings.

SECT. 11.—LEO I.

SECT. 12.—GREGORY I.

CHAPTER VI.—STATE OF THE CHURCH AT THE END OF THIS PERIOD.

PERIOD V.

GREGORY I.—CHARLEMAGNE. A. D. 600-814.

CHAPTER I.—EXTERNAL HISTORY.

SECT. 1.—GENERAL HISTORY.

1. Eastern empire.
2. Confusion in the West.
3. The Franks.
4. Charlemagne's coronation.
5. His dominion and work.

SECT. 2.—CONVERSION OF ENGLAND.

1. The Britons.
2. Saxon conquest.
3. Beginning of missionary work.
4. Missionary work in the North.
5. Victory of Romanism.

SECT. 3.—CONVERSION OF THE GERMANS.

1. Condition of the Germans.
2. Missionaries from Ireland.
3. Boniface.
4. Conversion of the Saxons.

SECT. 4.—MOHAMMEDANISM.

1. State of Arabia.
2. Youth of Mohammed.
3. His visions.
4. His preaching.
5. Spread of Mohammedanism.
6. Its doctrines.
7. Present condition.

CHAPTER II.—DOCTRINE.

SECT. 1.—MONOTHELETE CONTROVERSY.

1. The controversy.
2. Sixth general council.
3. Council of A. D. 692.

SECT. 2.—JOHN OF DAMASCUS.

CHAPTER III.—CHURCH GOVERNMENT.

1. "Universal bishop."
2. Heresy of Honorius I.
3. The pope and the eastern emperor.
4. The pope and western governments.

CHAPTER IV.—CHRISTIAN LIFE.

SECT. 1.—WORSHIP.

1. Discipline.
2. Masses for the dead.
3. Ignorance of the clergy.
4. State of religion.

SECT. 2.—ICONOCLASTIC CONTROVERSY.

1. Worship of pictures.
2. Edict of Leo III.
3. Irene and Leo IV.
4. Council of A. D. 787.
5. Leo V. and Theophilus.
6. End of the contest.
7. Causes of failure of iconoclasm.
8. Western opinions.

CHAPTER V.—STATE OF THE CHURCH AT THE END OF THIS PERIOD.

PERIOD VI.

AFTER CHARLEMAGNE TO GREGORY VII. A. D. 815-1085.

CHAPTER I.—EXTERNAL HISTORY.

SECT. 1.—GENERAL HISTORY.

1. Charlemagne's successors.
2. Otto I.
3. Alfred.
4. Norman conquest of England.
5. Events in the East.

SECT. 2.—SPREAD OF CHRISTIANITY.

1. Scandinavia.
2. Slavic countries.
3. Russia.

SECT. 3.—DIVISION OF EAST AND WEST.

1. Causes of separation.
2. Division.
3. Attempt at reunion.

CHAPTER II.—DOCTRINES.

SECT. 1.—PREDESTINARIAN CONTROVERSY.

SECT. 2.—EUCCHARISTIC CONTROVERSY.

CHAPTER III.—THE PAPACY.

1. False decretals.
2. Nicholas I.
3. Popes of the 10th century.
4. Gregory VII.'s youth.
5. His three great works.
6. The dispute with Henry IV.

CHAPTER IV.—STATE OF THE CHURCH AT THE END OF THIS PERIOD.

PERIOD VII.

PERIOD OF THE CRUSADES, A. D. 1085-1303.

CHAPTER I.—EXTERNAL HISTORY.

SECT. 1.—THE CRUSADES.

1. State of Palestine.
2. Beginning of the crusades.
3. First crusade.
4. Second crusade.
5. Fall of Jerusalem.
6. Capture of Constantinople.
7. End of the crusades.
8. Results.
9. The knights.

CHAPTER II.—THE PAPACY.

1. Contest of pope and emperor.
2. Thomas à Becket.
3. Innocent III.
4. Boniface VIII.

CHAPTER III.—LEARNING AND THEOLOGY.

SECT. 1.—LEARNING.

1. Universities.
2. Medieval theology.
3. Anselm.
4. Abelard.
5. Bernard.
6. Thomas Aquinas.
7. Duns Scotus.
8. Roger Bacon.
9. Maimonides.

SECT. 2.—DOCTRINES.

1. The atonement.
2. Justification.
3. The sacraments.
4. Indulgences.
5. Invocation of Mary and the Saints.
6. Purgatory.

SECT. 3.—SECTS.

1. Waldenses.
2. Albigenses.
3. Brethren of the Free Spirit.

CHAPTER IV.—RELIGIOUS LIFE.

SECT. 1.—MONASTICISM.

1. Citeaux.
2. Dominicans.
3. Franciscans.

SECT. 2.—STATE OF RELIGION.

1. State of faith.
2. Belief in evil spirits.
3. Reverence for relics.
4. High estimate of church rites.
5. The church and war.
6. The church and slavery.

SECT. 3.—WORSHIP.

1. Architecture.
2. Preaching.
3. Hymns.
4. Religious theatricals.

PERIOD VIII.

AFTER BONIFACE VIII. TO THE REFORMATION.

A. D. 1303-1517.

CHAPTER I.—GENERAL HISTORY.

1. England.
2. Spain.
3. Fall of Constantinople.
4. National literature.

CHAPTER II.—THE PAPACY AND COUNCILS.

1. The popes at Avignon.
2. Burden of taxes.
3. Rival popes.
4. Reforming scholars.
5. Council of Pisa.
6. Council of Constance.
7. Council of Basel and Florence.
8. The popes before the reformation.

CHAPTER III.—LEARNING.

1. Decay of medieval theology.
2. The "new learning."
3. Three causes of the revival of learning.
4. Italian scholars.
5. English and German scholars.
6. Erasmus.

CHAPTER IV.—REFORMERS.

SECT. 1.—JOHN WICLIF.

1. Life.
2. Teaching.
3. His preachers.
4. Translation of the Bible.
5. The Lollards.

SECT. 2.—JOHN HUS.

1. His youth.
2. His preaching.
3. His death.
4. Wars in Bohemia.

SECT. 3.—SAVONAROLA.

1. Youth.
2. Work in Florence.
3. Death.

SECT. 4.—THE FRIENDS OF GOD.

SECT. 5.—THE BROTHERS OF THE COMMON LIFE.

CHAPTER V.—NEED OF REFORM.

1. Evil doctrines.
2. Papal tyranny.
3. Papal greed.
4. Papal immorality.
3. Indulgences and years of jubilee.

PERIOD IX.

THE REFORMATION. A. D. 1517-1600.

CHAPTER I.—STATE OF EUROPE, A. D. 1517.

1. The pope.
2. The emperor.
3. Inventions and discoveries.
4. Progress of Astronomy.
5. Fine arts.

CHAPTER II.—GERMANY.

SECT. 1.—STATE OF GERMANY.

SECT. 2.—LUTHER'S LIFE TILL A. D. 1517.

1. Youth.
2. Education.
3. Entrance into convent.
4. Search for salvation.
5. Work at Wittenberg.
6. Visit to Rome.

SECT. 3.—BEGINNING OF THE REFORMATION.

1. Sale of pardons.
2. Luther's theses.
3. Development of his teaching.
4. Melancthon.
5. Luther's excommunication.

SECT. 4.—WORMS AND THE WARTBURG.

1. Luther's summons to Worms.
2. Luther at the diet.
3. Decision of the diet.
4. Luther at the Wartburg.
5. Return to Wittenburg.

SECT. 5.—REMAINDER OF LUTHER'S LIFE.

1. His marriage.
2. His labors.
3. His death.

SECT. 6.—PROGRESS OF THE REFORMATION IN GERMANY.

1. Edicts of the diet.
2. Origin of the name "Protestant."
3. The Augsburg confession.
4. The war.
5. Peace of Augsburg.
6. Death of Charles.
7. The Heidelberg catechism.

SECT. 7.—POLITY AND WORSHIP OF THE GERMAN CHURCHES.

CHAPTER III.—SCANDINAVIA.

CHAPTER IV.—ZWINGLI AND CALVIN.

SECT. 1.—STATE OF SWITZERLAND.

SECT. 2.—ZWINGLI.

1. Youth.
2. Work at Zurich.
3. Division and war.
4. Difference of Luther and Zwingli.
5. Dispute about the Lord's supper.
6. The Marburg conference.

SECT. 3.—CALVIN.

1. Early life.
2. Flight from France.
3. Arrival at Geneva.
4. Banishment and return.
5. Church and state in Geneva.
6. Calvin's labors and influence.
7. Calvin's theology.
8. Calvinism and civil liberty.

CHAPTER V.—FRANCE.

1. Francis I.
2. Henry II.
3. Francis II.
4. Charles IX.
5. Civil war.
6. Coligny.
7. Massacre of St. Bartholomew.
8. Henry III.
9. Henry IV.

CHAPTER VI.—HOLLAND.

SECT. 1.—CONDITION OF HOLLAND.

SECT. 2.—CHARLES V.

1. Introduction of Protestantism.
2. Charles's edicts.

SECT. 3.—PHILIP II.

1. His character.
2. His edicts.
3. The "Beggars."
4. The image-breaking.
5. Alva.

SECT. 4.—WILLIAM OF ORANGE.

1. Early life.
2. Beginning of rebellion.
3. Siege of Leyden.
4. Division of the country.
5. Death of William.
6. After events.

CHAPTER VII.—ENGLAND.

SECT. I.—HENRY VIII.

1. State of the country.
2. Henry's divorce.
3. The act of supremacy.
4. Suppression of the monasteries.
5. The six articles.
6. Tyndale.

SECT. 2.—EDWARD VI.

SECT. 3.—MARY.

SECT. 4.—ELIZABETH.

1. Her character and government.
2. The 39 articles.
3. War with Spain.
4. The Puritan controversy.
5. The Independents.

SECT. 5.—THE CHURCH OF ENGLAND.

CHAPTER VIII.—SCOTLAND.

SECT. 1.—THE CONDITION OF SCOTLAND.

SECT. 2.—BEGINNING OF THE REFORMATION.

SECT. 3.—JOHN KNOX.

1. Early life.
2. Life in England and Geneva.
3. Return to Scotland.

SECT. 4.—MARY.

1. Early life.
2. Opposition of Mary and Knox.
3. Disgrace of Mary.
4. Her death.

SECT. 5.—THE SCOTTISH CHURCH.

CHAPTER IX.—THE ROMAN CHURCH.

1. The council of Trent.
2. Loyola.
3. The society of Jesus.
4. Xavier.
5. The inquisition.
6. Limit of the spread of the reformation.

CHAPTER X.—ROMANISM AND PROTESTANTISM.

1. The first great difference.
2. The second.
3. The church and priesthood.
4. Relation to civilization and liberty.

PERIOD X.

THE SEVENTEENTH CENTURY.

CHAPTER I.—GERMANY.

1. The 30 years' war.
2. Events after the war.

CHAPTER II.—FRANCE.

1. Persecution of the Huguenots.
2. Jansenism.
3. Bossuet.
4. Fenelon.
5. Madam Guyon.

CHAPTER III.—HOLLAND.

1. Arminius.
2. Synod of Dort.
3. Spread of Arminianism.
4. Grotius.

CHAPTER IV.—ENGLAND.

SECT. 1.—POLITICAL HISTORY.

SECT. 2.—JAMES I.

1. Opposition to the Puritans.
2. Translation of the Bible.

SECT. 3.—CHARLES I. AND THE COMMONWEALTH.

1. Laud.
2. Civil war.
3. The Westminster Assembly.
4. The Independents.

SECT. 4.—CHARLES II.

1. Persecution of the dissenters.
2. Bunyan.
3. Jeremy Taylor.
4. Baxter.

SECT. 5.—JAMES II. AND THE REVOLUTION.

SECT. 6.—RISE OF NEW SECTS.

1. The Baptists.
2. The Friends.

CHAPTER V.—SCOTLAND.

1. Charles I.
2. Charles II.
3. The revolution settlement.

CHAPTER VI.—HERESIES.

SECT. 1.—DEISM.

SECT. 2.—SOCINIANISM.

CHAPTER VII.—PHILOSOPHY.

1. Bacon.
2. Descartes.
3. Spinoza.

CHAPTER VIII.—AMERICA.

SECT. 1.—NEW ENGLAND.

1. Rise of the Independents.
2. Removal to Holland.
3. Emigration to America.
4. Puritan emigration.
5. The New England churches.
6. Missionary work.
7. Worship.
8. Religious freedom.

SECT. 2.—OTHER COLONIES.

1. New York.
2. Pennsylvania.
3. Maryland.
4. Virginia.

PERIOD XI.

THE EIGHTEENTH CENTURY.

CHAPTER I.—ROMANIST COUNTRIES.

1. Abolition of the Jesuits.
2. Austria.
3. Unbelief in France.
4. The French revolution

CHAPTER II.—GERMANY.

SECT. 1.—THE MORAVIANS.

1. Persecution in Bohemia.
2. Removal to Saxony.
3. Zinzendorf.
4. Spread of the Moravians.
5. Customs and faith.
6. Missionary zeal.

SECT. 2.—RATIONALISM.

CHAPTER III.—ENGLAND.

SECT. I.—THE EVANGELICAL REVIVAL.

1. Condition of religion and morals.
2. John Wesley's early life.

3. Life at Oxford.
4. Voyage to America.
5. "Conversion."
6. Preaching of Wesley and Whitefield.
7. Organization of the societies.
8. Separation from the church of England.
9. Wesley's work and teaching.
10. Charles Wesley and Fletcher.
11. Whitefield.
12. Effect of their preaching.

SECT. 2.—EVANGELICAL LEADERS AND REFORMERS.

1. Newton.
2. Cowper.
3. Watts.
4. Doddridge.
5. Toplady.
6. Howard.

SECT. 3.—UNBELIEF AND APOLOGETICS.

1. Deism and Hume.
2. Butler.

CHAPTER IV.—THE UNITED STATES.

1. State of religion.
2. Jonathan Edwards.
3. Revivals.

CHAPTER V.—MISSIONS.

SECT. 1.—MISSIONS IN THE 16TH CENTURY.

SECT. 2.—MISSIONS IN THE 17TH AND 18TH CENTURIES.

1. Dutch missions.
2. Danish mission; Ziegenbalg and Schwartz.
3. Other missions.

PERIOD XII.

THE NINETEENTH CENTURY.

CHAPTER I.—ROMANISM.

1. Pius IX.
2. Dogma of the immaculate conception.
3. The Vatican council.
4. End of the pope's temporal power.
5. The Old Catholics.
6. Revival of superstition.
7. Condition of Romanist countries.

CHAPTER II.—GERMANY.

SECT. 1.—THE EVANGELICAL UNION.

SECT. 2.—RATIONALISM.

1. Strauss.
2. Baur.

SECT. 3.—BELIEVING SCHOLARS.

1. Schleiermacher.
2. Neander.
3. Tholuck.

CHAPTER III.—ENGLAND.

SECT. 1.—PROGRESS OF RELIGIOUS FREEDOM.

SECT. 2.—CHURCH OF ENGLAND.

1. The Oxford movement.
2. The ritualists.
3. The evangelical party.
4. The broad church.
5. Condition of the church.

SECT. 3.—DISSENTERS.

3. Life at Oxford.
4. Voyage to America.
5. "Conversion."
6. Preaching of Wesley and Whitefield.
7. Organization of the societies.
8. Separation from the church of England.
9. Wesley's work and teaching.
10. Charles Wesley and Fletcher.
11. Whitefield.
12. Effect of their preaching.

SECT. 2.—EVANGELICAL LEADERS AND REFORMERS.

1. Newton.
2. Cowper.
3. Watts.
4. Doddridge.
5. Toplady.
6. Howard.

SECT. 3.—UNBELIEF AND APOLOGETICS.

1. Deism and Hume.
2. Butler.

CHAPTER IV.—THE UNITED STATES.

1. State of religion.
2. Jonathan Edwards.
3. Revivals.

CHAPTER V.—MISSIONS.

SECT. 1.—MISSIONS IN THE 16TH CENTURY.

SECT. 2.—MISSIONS IN THE 17TH and 18TH CENTURIES.

1. Dutch missions.
2. Danish mission; Ziegenbalg and Schwartz.
3. Other missions.

PERIOD XII.

THE NINETEENTH CENTURY.

CHAPTER I.—ROMANISM.

1. Pius IX.
 2. Dogma of the immaculate conception.
 3. The Vatican council.
 4. End of the pope's temporal power.
 5. The Old Catholics.
 6. Revival of superstition.
 7. Condition of Romanist countries.
-

CHAPTER II.—GERMANY.

SECT. 1.—THE EVANGELICAL UNION.

SECT. 2.—RATIONALISM.

1. Strauss.
2. Baur.

SECT. 3.—BELIEVING SCHOLARS.

1. Schleiermacher.
 2. Neander.
 3. Tholuck.
-

CHAPTER III.—ENGLAND.

SECT. 1.—PROGRESS OF RELIGIOUS FREEDOM.

SECT. 2.—CHURCH OF ENGLAND.

1. The Oxford movement.
2. The ritualists.
3. The evangelical party.
4. The broad church.
5. Condition of the church.

SECT. 3.—DISSENTERS.

SECT. 4.—NEW SECTS.

1. Irvingites.
2. Plymouth Brethren.

SECT. 5.—THE EVANGELICAL ALLIANCE.

SECT. 6.—UNBELIEF.

CHAPTER IV.—SCOTLAND.

1. Condition in the 18th century.
2. The United church.
3. The Free church.
4. Chalmers.
5. The established church.

CHAPTER V.—THE UNITED STATES.

SECT. 1.—RELATION OF CHURCH AND STATE.

SECT. 2.—EVANGELICAL CHURCHES.

1. Congregationalists.
2. Baptists.
3. Campbellites.
4. Episcopalians.
5. Reformed Episcopalians.
6. Presbyterians.
7. Cumberland Presbyterians.
8. United Presbyterians.
9. The Reformed churches.
10. Methodists.
11. Lutherans.

SECT. 3.—OTHER CHURCHES.

1. Unitarians.
2. Universalists.
3. Adventists.
4. Friends.
5. Roman Catholics.

SECT. 4.—DELUSIONS.

1. Mormonism.
2. Shakerism.
3. Oneida perfectionism.
4. Spiritualism.

CHAPTER VI.—MISSIONS.

SECT. 1.—RISE OF MODERN MISSIONS.

1. William Carey.
2. English societies.
3. Scotch societies.
4. American societies.
5. German societies.
6. French societies.
7. Statistics of missionary societies.

SECT. 2.—JAPAN.

SECT. 3.—CHINA.

1. State of the country.
2. Beginning of missionary work.
3. Progress of Christianity.

SECT. 4.—BURMAH.

1. State of the country.
2. Beginning of missionary work.
3. The Karens.
4. Present condition.

SECT. 5.—INDIA.

1. State of the country.
2. Beginning of missionary work.
3. Henry Martyn.
4. Alexander Duff.
5. Obstacles.
6. Present condition.

SECT. 6.—TURKEY.

SECT. 7.—AFRICA.

1. Condition of the country.
2. South Africa.
3. The great lakes.
4. West Africa.
5. Madagascar.

SECT. 8.—AMERICA.

1. North America.
2. The United States.
3. The West Indies.
4. South America.

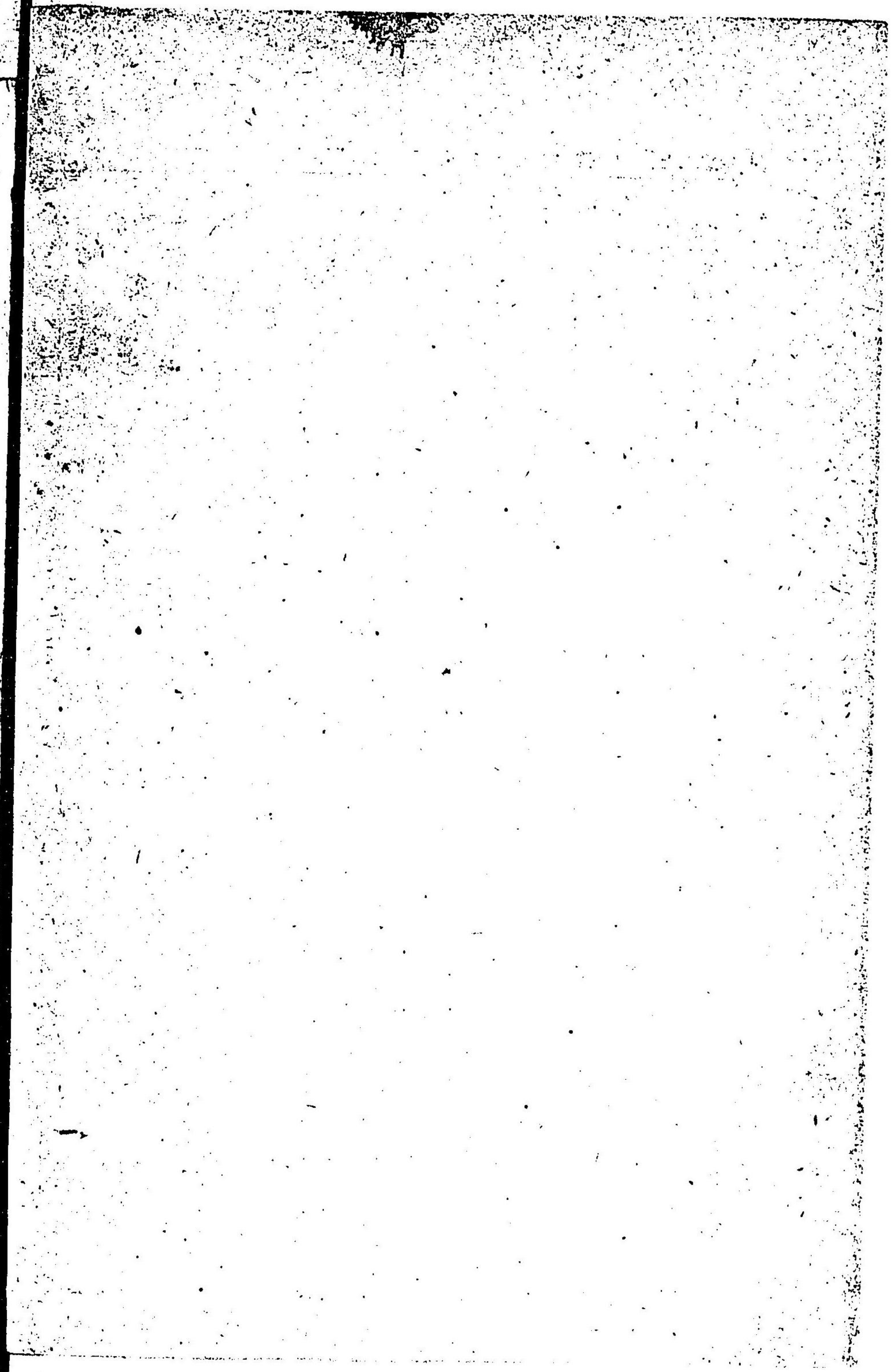
SECT. 9.—THE PACIFIC ISLANDS.

1. Hawaii.
2. Society Islands.
3. Samoa.
4. Fiji.
5. Melanesia.
6. Micronesia.

SECT. 10.—RESULTS.

CHAPTER VII.—CHRISTIAN PROGRESS.

1. Sunday schools.
2. Slavery.
3. Temperance.



明治廿二年九月二日印刷

同 九月三日御届

同 九月十七日發賣

(正價壹圓三拾錢)

版權所有

發行兼印刷者

今村謙吉

大阪土佐堀三丁目
三十八番屋敷

筆記者

速水琢嚴

京都上京區烏丸通一條上
觀三橋町十番戶寄留

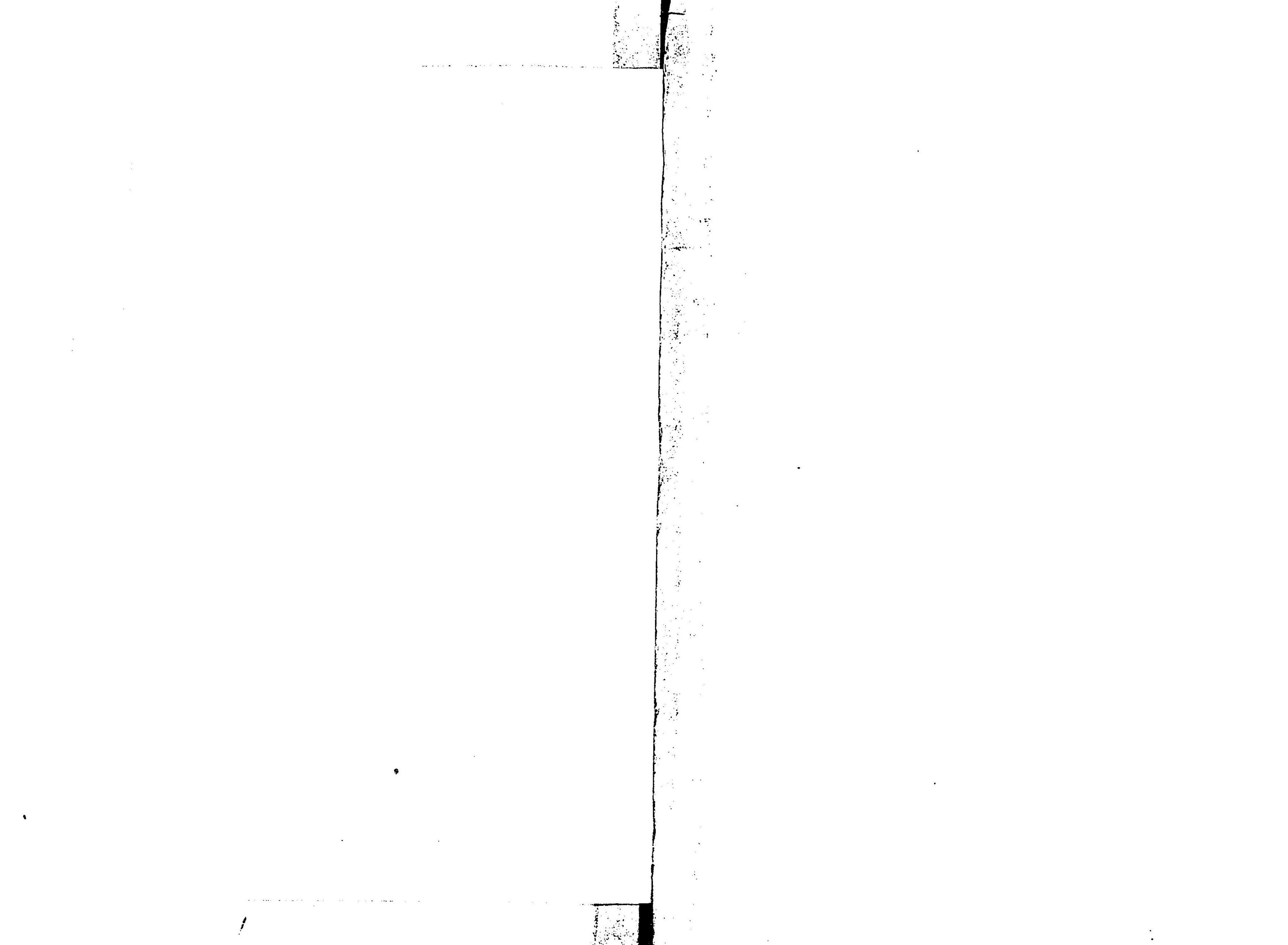
印刷所

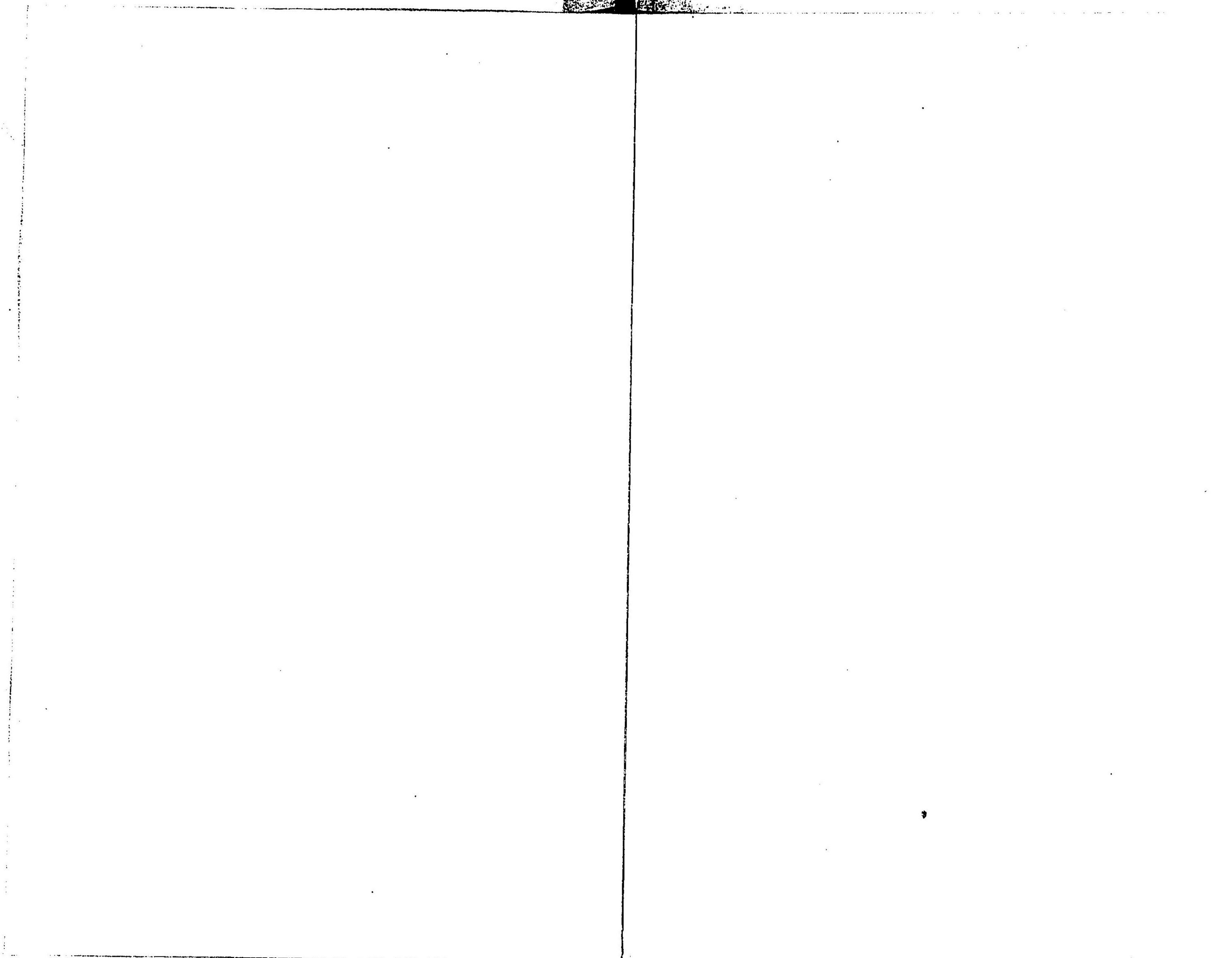
福音社

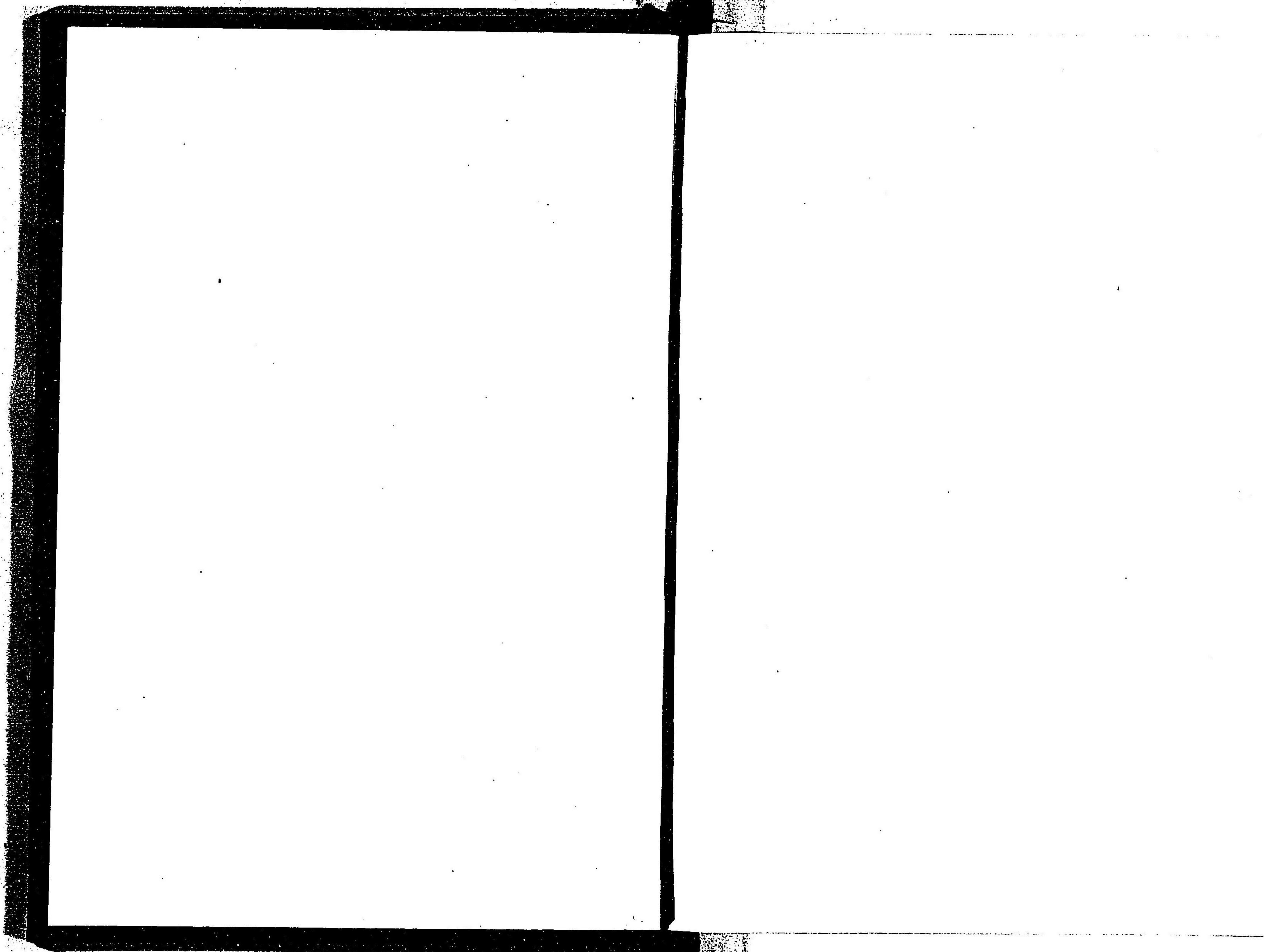
大阪土佐堀三丁目
三十八番屋敷

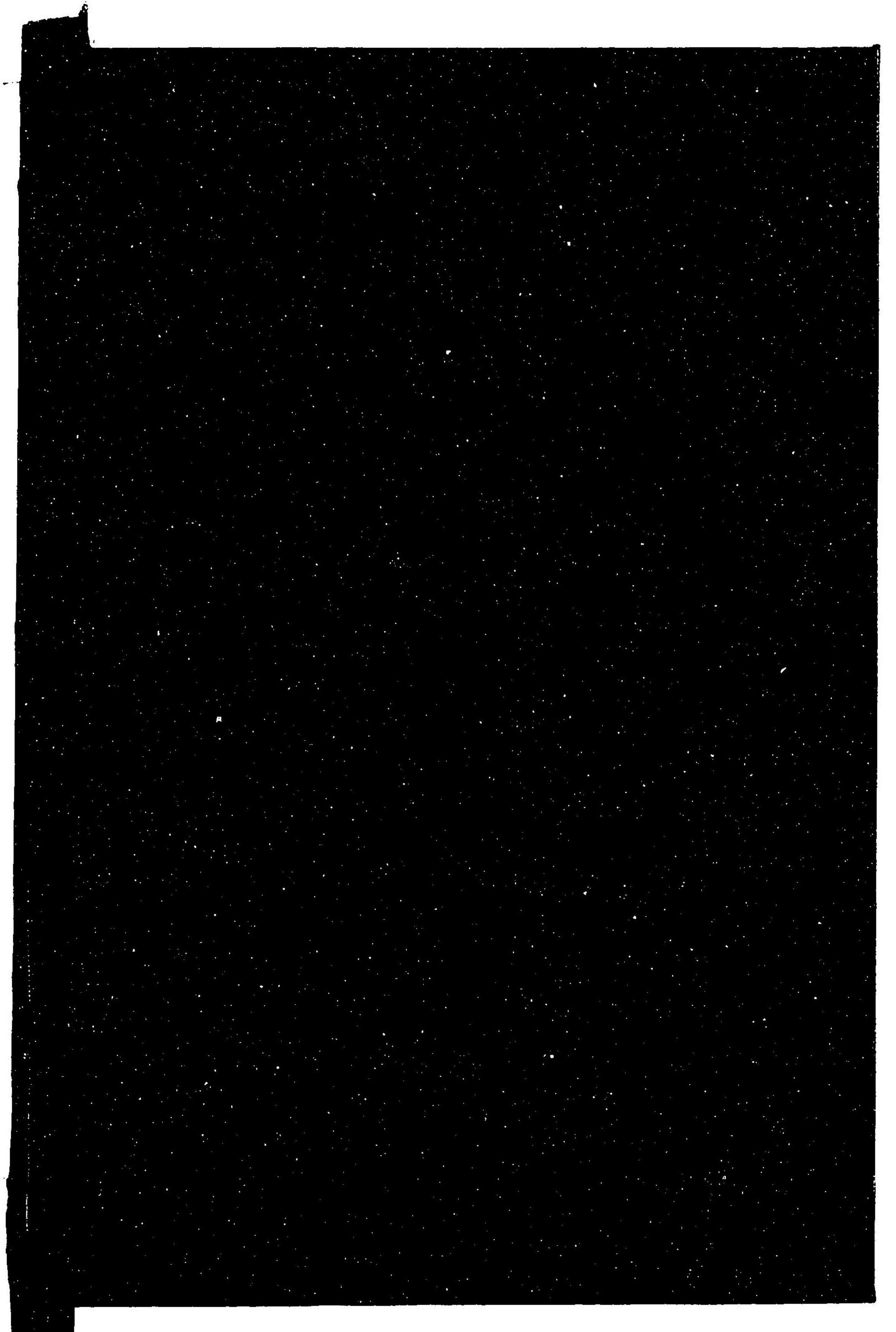
8.9.25

#3X99









37
107
M

020436-000-2

37-107

基督教会歴史

ラールネデ/述

M22

ABI-0246

